文部科学省
『特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）』
研究指定（平成 30 年度～令和 2 年度）

特別支援学校における
「主体的・対話的で深い学び」
実践事例集

令和３年３月

高知県教育委員会

はじめに

高知県教育委員会では、平成30年度から令和2年度までの3年間、文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」の指定を受け、高知県立高知江の口特別支援学校（病弱）、高知県立高知ろう学校（聴覚障害）、高知県立日高特別支援学校（知的障害）の県立特別支援学校3校を研究指定校とし、新学習指導要領の理念を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでまいりました。

近年は、デジタル化の急速な進展や新型コロナウイルス感染症対策の必要性などから、これまでには考えられない早さで社会が大きく変化しています。誰も経験したことがないこれからの社会にあっては、様々な人と協働しながら社会的変化を乗り越えていく必要があり、特別支援教育においても、新学習指導要領の理念を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行うことで、変化を乗り越え、自立と社会参加につながる資質・能力を育成していくことが重要です。

この冊子を参考にしていただき、特別な支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズに応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことで、高知県内の特別支援教育の更なる充実につながることを期待しています。

令和3年3月

高知県教育委員会

目　次

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて　・・・・　1
特別支援学校（病弱）　・・・・　3
研究の概要　高知江の口特別支援学校（病弱）　・・・・　5
実践事例　・・・・　11
「主体的・対話的で深い学び」学び方シート（2020）　・・・・　17
授業内容シート（2020）　・・・・・18
教師の工夫・手立て・しかけ　・・・・　21
特別支援学校（聴覚障害）　・・・・　25
研究の概要　高知ろう学校（聴覚障害）　・・・・　27
実践事例　・・・・　32
高知ろう学校授業のスタンダード票　・・・・　39
授業改善シート　・・・・　40
特別支援学校（知的障害）　・・・・　41
研究の概要　日高特別支援学校（知的障害）　・・・・　43
実践事例　・・・・　47
新・学習過程分析表（2020）　・・・・　54
学習指導略案　・・・・　55
事後協議用シート（2020）　・・・・　57
引用・参考文献等　・・・・　58

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

１　育成すべき資質・能力

今回の学習指導要領の改訂では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育んでいくことを目指している。

このため、これまで学校教育において長年育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、学校教育を通して育成を目指す資質・能力を「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の３つに整理し、バランスよく育まれるように構造化されている（図１）。

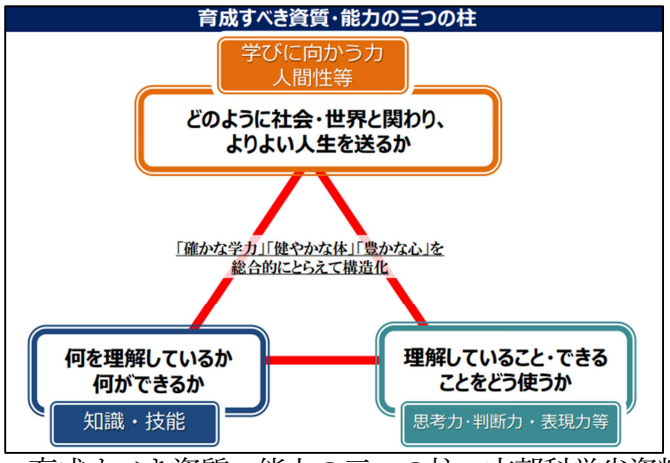


図１　育成すべき資質・能力の三つの柱　文部科学省資料

２　「主体的・対話的で深い学び」と授業改善

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）及び特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）の『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進』では、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要」としている。この授業改善の推進に向け、「我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点」として、『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）』を進めることが示されている（図２）。

つまり、今回の学習指導要領の改訂では「何を学ぶか」だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「どのように学ぶか」も重視して授業改善を行い、PDCA サイクルで実践を検証するな

ど、カリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ることが大切である。

図２　主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの授業改善について（イメージ）　文部科学省資料

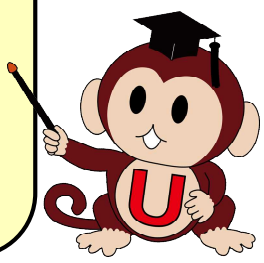
３　特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「主体的・対話的で深い学び」とは、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善に留まるものではない。幼児児童生徒それぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、その捉えや、何をねらうのか、どういった方法で授業を展開するのかなどについて、学校の実態や幼児児童生徒の障害の状態や経験等を踏まえる必要がある。各学校の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点を具体化して教職員間で共有し、組織的に日々の授業改善の取組を活性化していくことが学びの質を高めるために重要である。

このあと病弱、聴覚障害、知的障害の特別支援学校の実践事例を紹介します。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は、学校の実態などによって変わり得ることから、本冊子で紹介されている実践事例を参考に、実態に応じた授業改善の取組につなげていきましょう。



特別支援学校（病弱）

研究の概要　　高知江の口特別支援学校（病弱）

１　研究の目的

これまでの ICT 機器を活用した授業づくりの実践研究で得られた成果を踏まえ、更に ICT 機器の効果的な活用によって「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて実践的に研究する。

その成果を県内の病弱特別支援学級や発達障害等の特別な支援を必要としている児童生徒への教育の充実につなげる。

２　研究仮説

これまでの取組から、ICT 機器を効果的に活用した授業づくりを研究することで、発達障害や学習空白などにより、学習意欲の低下や学び方の特性が見られる児童生徒に対して、効果があることがわかった。この成果を踏まえ、更に ICT 機器を効果的に活用することで、授業における「主体的・対話的で深い学び」方を実現することができるのではないか。

３　「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた取組

（１）病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート（2020)」の作成

１年次には、授業のねらいを達成するための児童生徒の学びの姿を表した病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」を作成し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を行った。「学び方シート 2020」は、１年目に作成した学び方シート（試案）に各教科担当が想定する具体的な学びの姿を追記するとともに、試案より具体化された学びの姿が示されたものを整理し、改良を行ったものである。「学び方シート」を参考にしながら学習指導案に期待する児童生徒の姿を記入することで、児童生徒の学びの姿をより具体的にイメージすることができた。また、授業評価においても、授業における期待される児童生徒の学びの姿の視点から振り返りを行うことができた。

項　目		具体的な姿（参考例）	R1追加　具体的な姿（参考例）
主体的な学び	②自ら気づいて行動する	できる活動を選んで参加しようとしている 役割を見つける 自己選択・自己決定している 必要なことをメモする	既習事項を生かしつつ、資料を活用するなどして学びを進めようとしている 必要な技能を身につけようと自ら気づいて行動する 学習内容を学ぶ意義がわかり、課題に取り組んでいる
	⑤授業に興味、関心を示している		きまりを守って自主的に運動しようとしている 興味・関心をもって実験に取り組もうとしている
対話的な学び	②自分の考えを多様な表現で伝えようとしている	本時で分かったことを教員や友達に伝えている 自分の意見を話すまたは書く	自分の考えを言葉で表現する 自分の言葉で説明しようとしている 自分の考えを述べたり、本文を読んで分かったことを伝えようとしたりしている
	③互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている	教員を介して友達とのやり取りを広げる 良い点を褒めようとする 他者の意見や考えを聞こうとしている	互いの思いや考えを伝え合う
深い学び	⑤学んだ知識を概念化する	「あ～。そういうことだったのか」 習った知識が深まる、気づく	
	⑥学んだことから新たに課題をみつけている		自己の課題に気づく

学び方シート 2020（抜粋）

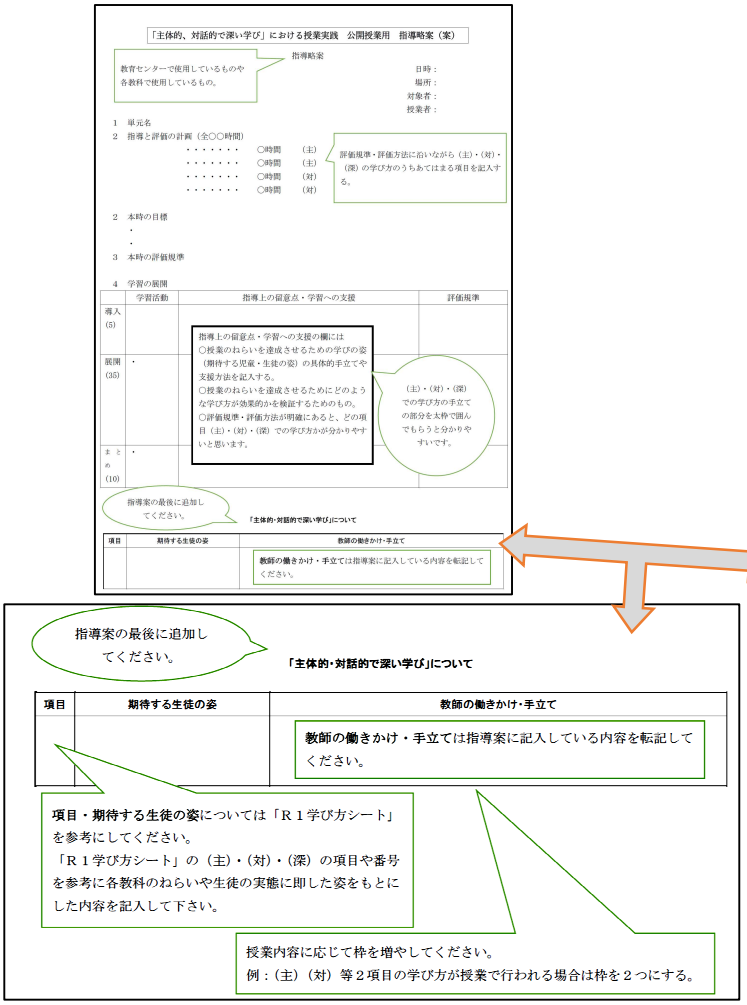
（２）公開授業研究の実施と授業の振り返り

全教員が、ICT 機器を使用し、年２回の公開授業を実施した。公開授業では、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿を想定し、学習指導案の指導の計画に、どのような学びの姿を想定するのか考え、明記するようにした。

そして、学習指導案の最後には、期待する児童生徒の姿、教師の働きかけ、手だてを記入できる項目を追加し、授業評価票と連動させた。

「主体的・対話的で深い学び」の学び方シートを参考に児童生徒の学びの姿を想定し、学習指導案と連動させた授業評価票を使用して、自己評価、参観者評価を実施した。この２つを連動させたことで授業のねらいを達成させるための「主体的・対話的で深い学び」のどのような学びの姿がみられたのか、授業のねらいに迫るための手立てはどうだったのかを振り返ることができた。

また、短時間の参観者からも意見がもらえるように廊下に学習指導案を掲示し、付箋を活用して授業についてのコメントを一言でも書いてもらうことで、授業者の授業改善につなげることができた。



学習指導案（様式）

授業評価票

（３）外部専門家を招いた研修会の実施

２名の講師を招き、研修や事例検討会を実施した。

関西学院大学教育学部　教授　丹羽　登　先生には「学び方シート」の作成にあたり、学習指導要領の理解や ICT 機器に関する実践をご指導いただいた。

高知大学大学院・教職実践高度化専攻　教授　松本　秀彦　先生には「発達障害の理解と支援」や「病弱教育における主体的・対話的で深い学びについて」ご教授いただいた。事例検討会では学部をこえ、学校全体で、課題を抽出し、授業改善の具体的な手立てなどを協議・共有した。児童生徒の実態把握の大切さを理解するとともに、一人一人が授業改善につなげることができる有意義な研修会となった。

講師:関西学院大学 教授 丹羽 登 氏 **1年次** 病弱教育における「主体的・対話的で深い学びについて」 〇学び方シート(試案)の検討開始【全教員によるワークショップ】	**講師: 高知大学大学院 教授 松本 秀彦 氏** **1年次　年4回の校内研修** ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学びについて」 第1回【ASDについて】 第2回【ADHDについて】【読み書き障害について】 第3回【事例検討①　高等部】 第4回【事例検討②　中学部】
2年次 病弱教育における「主体的・対話的で深い学びについて」 ～ICT機器の効果的な使い方～ アプリの実践 〇学び方シート(試案)の改良【公開授業から各教科で想定した学びの姿を追加】	**2年次　年4回の校内研修** 発達障害の理解と支援に関する専門性の向上研修 第1回【ASD・ ADHD・読み書き障害について】 第2回【事例検討③】 第3回【事例検討④】 第4回【事例検討⑤通級】
3年次 発達障害の児童生徒を支援する「主体的・対話的で深い学び」について ～ICT機器の効果的な使い方～ 〇学び方シートを活用した事例検討 【生徒の実態に応じたアプリや機器について・ICTの効果的な活用方法の検討】	**3年次　年4回の校内研修** 病弱教育における「主体的・対話的で深い学びについて」 第1回【事例検討⑥高等部】 第2回【事例検討⑦小学部】 第3回【事例検討⑥高等部】 第4回【事例検討⑦小学部】

※３年次は⑥と⑦の２事例を継続して検討した

（４）主体的・対話的で深い学びに関する授業実践例の蓄積

・ICT 機器やアプリ等を活用した授業実践を「授業のねらい」、「期待する児童生徒の姿」、「使用した ICT 機器」、「アプリ・ソフト」、「児童生徒の様子」、「成果・課題」の項目で概要をまとめ、「授業内容シート（2020）」として学部ごとに一覧にした。「主体的・対話的で深い学び」につながる授業であったかの検証は不十分な面もあるが、ICT 機器を活用した授業実践例として蓄積することができた。各学部や各教科で活用している ICT 機器や授業のねらいに応じて活用できるアプリの情報など、実践内容や ICT に関する情報を学部や教科を越えて共有できる資料となった。

・「主体的・対話的で深い学び」に関する授業実践をまとめ、実践事例集を作成した。

授業内容シート２０２０							
教科	項目	本時の授業のねらい	期待する児童・生徒の姿	使用したICT機器	アプリ・ソフト	本時の児童・生徒の様子	成果・課題
算数	主・対	・三角形の内角の和は180度であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めることができる。	（主）ア～オの二等辺三角形では３つの角を足すと180度になることに気付き、表の一番下の項目に「和」を書き込んでいる。 （対）友達や教員と三角形を交換し合い、一緒に調べている。	モニター iPad	GoodNotes なん度？	・モニターを見ながら、教科書の表に書き込むことができ、児童にとって分かりやすかった。 ・「GoodNotes」を使えば、ものさし要らずで簡単に三角形を描くことができた。 ・「なん度？」を使うことで、教科書の練習問題よりも主体的、意欲的に学習できていた。	・「GoodNotes」で予め順を追って表を作成しておくことができ、板書よりも時間を短縮できた。 ・家でも児童自身が「なん度？」をインストールし、夢中になって取り組んでいる様子が伺えた。 ・表の見方を示す時に、注目してほしい部分を赤い線で囲むなどもう一段階設けていれば、児童自身の発見にできたかもしれない。 ・「なん度？」をやり始めると、最後までやりたいという気持ちから途中でやめることが難しかった。
社会	主	・地図記号の意味を知る。 ・地図記号や校内地図などの情報を手掛かりに、先生と一緒に校内の様子を調べることができる。	・地図記号の意味を知り、校内にある地図記号を見つけたり、写真を撮ったり、先生と一緒に校内調査に取り組めている。	パソコン モニター	パワーポイント	・主な活動を校内探検としたことで、教室以外の場所に出かけることができ、これまでに行くことがなかった３階の階段の踊り場まで先生と一緒に上がることにチャレンジできた。 ・自分の教室がある1階では、一人でも探検に行くことができ地図記号を一つ見つけることができた。	・パワーポイントを活用して学習活動の具体的な内容にイラストや写真を添付し、視覚的に伝えることで落ち着いて最後まで話を聞くことができていた。 ・動きのある学習内容を設定することで、関心をもって取り組んでみようとする児童の姿がみられた。 ・予想外のことが起きることを前提に、起きた時の対応についてあらかじめいくつか準備しておく必要があった。 ・情報量が多かったために、めあてや重視したい内容が不明瞭となった。
理科	主	・植物の生長と水の関わり　水が葉のどこから水蒸気として出ていくかがわかる。	・動画を通して実験方法を知り、葉の表面を顕微鏡で観察することができる。	パソコン モニター	デジタル教科書 パワーポイント	・根からとり入れた水は水の通り道を通って植物の全体に運ばれることを知っており、「水は葉から空気中に出ていく」と予測した。葉の表面の薄皮をはがしてプレパラート作りに意欲的に取り組み、（顕微鏡の操作は教員が行う）気孔を見つけてスケッチすることができた。	・植物の水の通り道は、色水の実験ができていなかったが、動画を見ることで理解ができた。実験方法の動画は効果的であり、実際に役立てることができた。パワーポイントに実験画像を取り込み、授業の流れをまとめたもので振り返ることも理解の助けになっていた。最後に提示した発展的な問題の画像にも興味をもつことができて理解を深められた。

授業内容シート 2020（抜粋）

（５）「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教員の工夫、手だて、しかけについてのまとめ

・教育課程研究集会での協議内容を踏まえ、教員の手だてや工夫を授業の導入、展開、まとめの場面ごとに整理し、授業改善に活用できる資料を作成することができた。

	導入	展開	まとめ
主体的な学び	・見通しがもてるように授業の内容・順番など学習の流れを提示し、視覚化する。 ・学習に興味関心をもてるように題材に関する予想やクイズを行う。	・解決のヒントを何段階か準備しておき、必ず自分で答えを導けるような手立てをする。	・目標に対するまとめ（自分で立てた目標に対して、今日の自分がどうだったか)を振り返るシートを準備する。
対話的な学び	・先生と生徒役をかわる。 ・それぞれが立てた目標をみんなで見聞きする。	・ペア活動の際の手立てをする。（スモールステップ、役割、話す手順、話したい内容を可視化する）など	・活動している姿を動画で撮影しておいて、みんなでどうだったか見合う。
深い学び	・応用力・思考力を必要とするクイズ的な課題をいくつか準備する。	・習ったことを使う場面をいれる ・辞書、図鑑、インターネット等調べられる環境整備をする。	・学習の感想（分かったこと、分からなかったこと、学習したことなど）を次の時間につなげる。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教師の工夫・手立て・しかけ（抜粋）

（６）研究成果の発表

・教育課程研究集会（病弱部会）を開催し、実践内容や成果を発表し、「主体的・対話的で深い学び」について協議等を行った。

・WEB 会議システムを活用した研究成果報告会を行い、広く県内に 3 年間の研究成果を発表した。

４　まとめ

「学び方シート」の活用については、授業を組み立てる時に参考にできた、シートを基に目指す生徒像を学習指導案や授業評価票に具体的に書くことができたため、評価もしやすかったという感想がある一方で、児童生徒の実態も様々であるので項目の中には自分の想定する姿があてはまらなかったり、児童生徒の具体的な学びの姿がどの学びの姿にあてはまるのかも教員によって捉え方に違いがみられたりもした。「学び方シート」の活用によって、授業実践では全教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組むことができたが、「主体的・対話的で深い学び」の姿とその実現についての理解や共通認識を更に深めていくことが必要である。

授業における ICT 機器の活用については、デジタル教科書やパワーポイントでのスライド提示などモニターを使うことで生徒の顔も上がるようになった、音声読み上げ機能や付箋機能を生徒自ら使用して主体的に学習できた等、効果的な活用の実践例も蓄積されてきている。全教員で ICT を活用した公開授業を実施する中で、デジタル教材とアナログ教材の使い分けが必要であることや提示するものが多くなるとノートテイクする場所が分かりづらくなる等、課題も明確になった。今後は、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの取組を更に進めていくうえで、ICT の効果的な活用について課題を踏まえて取り組むとともに、ユニバーサルデザインによる授業づくりの基本を再度確認しながら授業改善の取組を行っていきたい。

（１）成果

・病弱特別支援学校における児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿を想定した「主体的・対話的で深い学び方シート（2020）」を作成した。学び方シートを学習指導案や授業評価票に連動させて活用することで、児童生徒の学びの姿を意識し、授業改善を行うことができた。

・授業研究（公開授業）を通して実践事例の積み重ねができ、ICT 機器やアプリ等を活用した実践事例を「授業内容シート（2020）」にまとめることができた。

・「主体的・対話的で深い学びに関する教員の工夫・手だて・しかけ等」についてまとめ、授業を組み立てる上で活用できるものとなった。

・全教員による授業での ICT 活用（研究授業　活用率 100%）を通して課題が明確になり、今後の効果的な ICT 活用や授業改善のための手がかりを得ることができた。

・３年間の研究のまとめとなる授業実践集の作成や研究成果報告会によって県内に研究成果を発表することができた。

・アンケートによる評価結果の変化

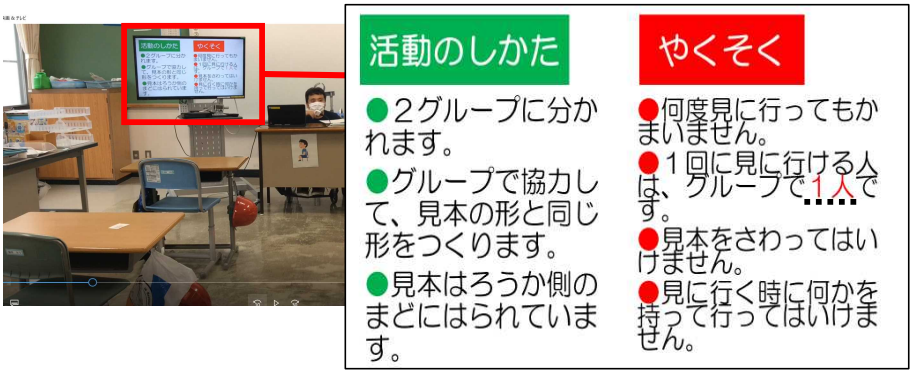
児童生徒への学校生活アンケート「勉強はわかりますか」の項目において、肯定的回答の割合が 93.3%で、昨年度 82.6%に比べ上昇した。また、学校評価アンケート「先生は教材や教え方の工夫をしている」の項目において、児童生徒の肯定的回答の割合は

93.3%（H30：85.0%、R1：90.5%）と、3 年間で上昇してきている。実際の授業を通して、児童生徒に教員の教え方や教材の工夫等がされていることが感じられているのではないかと考えられる。

（2）課題

・「主体的・対話的で深い学び」の姿を実現する授業実践について、これまでの実践で得たものをさらに向上できるよう継続して取り組み、実践の積み重ねを行っていく。
・ICT の活用を継続して実践を重ね、研究の中で明らかになった課題を踏まえ、児童生徒の実態や授業のねらいに応じた効果的な活用を検討していく。
・ユニバーサルデザインによる授業づくりの基本を再度確認し、授業改善の取組を進める。
・児童生徒一人 1 台のタブレット導入にあたり、教員間での情報共有を行うことや ICT 支援員の協力を得ながら教員の ICT 機器操作やアプリ活用のスキルアップを行う。
・ICT 機器を習慣的、継続的に活用することで、児童生徒の ICT 活用能力を育成する。

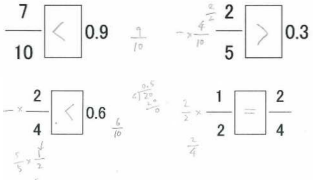
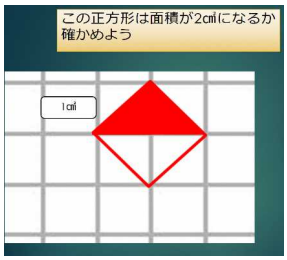
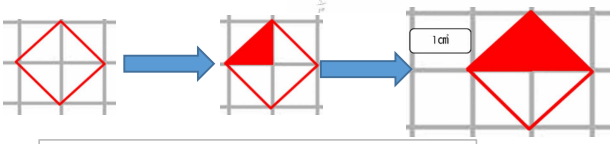
実践事例１（小学部）

科目名	自立活動
単元名	「周りの人の声に耳をかたむけよう」
期待する児童・生徒の学びの姿	教員の提示した「解決のための道しるべ」などを参考にしながら、言葉遣いに注意してグループの話し合いができている。（対）
教員の働きかけ・手だて	「解決のための道しるべ」を掲示し、話し合いの時の参考になることを伝えておく。 話し合いの時に、「この部分を見てきて」「ほかにどんな絵があった？」「どんな文字があった？」等の質問があればいいこと、「はようしいや！」「ちゃんと覚えや！」などのチクチク言葉は使わないほうがいいことを伝える。
ICT活用ポイント	・授業の目標やルールをアニメーション機能を活用することで強調して提示した。 ・特に守ってもらいたい「やくそくごと」については文字の色を変えることで強調して提示した。
活用場面（実践の様子・画像）	 「活動のしかた」「やくそく」ともに一つずつ出てくるようにアニメーションで示した。 「やくそく」の1回に見に行くことができる人数については強調し「**１人**」を赤字で示した。
活用アプリ・ＩＣＴ機器	ICT機器…パソコン、モニター 活用アプリ…パワーポイント
指導者コメント	集中力が長時間持続しない児童にとっては、パワーポイントのアニメーション機能を使った提示をすることによって、集中してモニターを見ることにつながった。反面、パワーポイントはスライドが次々に変わっていき、画面上は残らないので、ルールなど忘れているような様子が見られた。大事なことは紙面で渡すなどアナログとの併用が有効であると感じた。

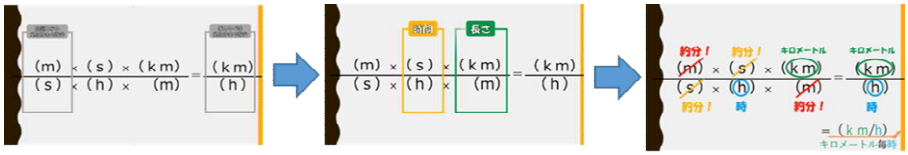
実践事例2　（小学部）

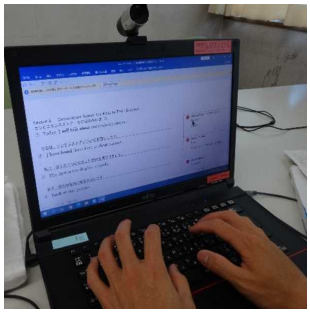
科目名	音楽
単元名	「いろんなリズムに親しもう」
期待する児童・生徒の学びの姿	・グループで活動するリズムリレーやアンサンブルを友だちといっしょに楽しんでいる（主） ・拍の流れにのってリズム打ちができ、リズムの組み合わせやリズムにあう言葉を考えることができている。（深）
教員の働きかけ・手だて	・練習時間や多くのリズム体感時間を確保する。 ・体の音やいろいろな楽器からやってみたいものを選べるようにする。 ・リズム打ちなどの動きを視覚化して、思考するところが明確になるようにする。 ・パワーポイントや絵カードを活用し、児童が理解しやすいように支援をする。
ICT活用ポイント	学習活動の視覚化にパワーポイント、拍を意識させたり保持するためにメトロノームやリズムボックス、自分の演奏の振り返りにボイスメモを活用した。
活用アプリ・ＩＣＴ機器	ICT機器…パソコン、モニター、iPad 活用アプリ…パワーポイント、メトロノーム、リズムボックス、ボイスメモ
活用場面（実践の様子・画像）	
指導者コメント	パワーポイントで児童が練習するリズムや練習の仕方を提示することで、安心して活動に取り組めていた。 ワーキングメモリーの弱さをフォローするものとして、パワーポイントによる活動内容の拡大提示は効果的であった。 リズムボックスやメトロノームの効果を十分に生かしきれなかったが、視覚化されたリズムの回数と照合しながら模奏をすることができ、正しい回数を児童自身で確かめられ、活動できるよさがあった。

実践事例３　（中学部）

科目名	数学
単元名	小数・分数 平方根の導入
期待する児童・生徒の学びの姿	・ワークシートを参考に見通しをもち課題に取り組む。(主) ・正方形の面積の公式から2乗して2になる数を考える。(深)
教員の働きかけ・手だて	・授業の始めに実態に合わせたプリント学習を継続して行い、内容理解の確認を図る。 ・公式等のヒントカードを提示し、自分で確認しながら問題を解くよう支援する。
ICT活用ポイント	・ワードやパワーポイントによる色合いなどを意識しアニメーションを活かした自作　教材(ヒントカード、スライドなど) ・スライドでは、色合いだけでなく面積の変化が分かるアニメーションを付けることで、生徒が視覚的に捉えやすいようにした。
活用アプリ・ＩＣＴ機器	ICT機器…パソコン、モニター 活用アプリ…ワード、パワーポイント
活用場面（実践の様子・画像）	 ・ヒントカードで示すことで、分数と小数の比較に主体的に取り組むことが出来た。 ・段階的に難易度を上げることで、分母の違う分数は分母を合わせる必要があることに自ら気    左図の赤部分の面積の説明をするときに上のようなアニメーションを付けることで生徒が理解できた。
指導者コメント	個々の生徒のつまづきを想定したヒントカードを作成することで、それを活用しながら問題を間違えず（主体的に）解くことができるようになった。ヒントカードは、わかりやすく配色を工夫することで視覚的に捉えやすくすることが効果的であった。学習の定着については、公式を利用しての計算問題は、繰り返し練習することでほぼ間違わずに解くことができるようになったが、問題の傾向が少し変わると対応できない生徒もいた。ヒントカードの活用で、家庭学習時におこる思い込みによる間違いを減らすことができ、授業の内容へもスムーズに取り組むことができるようになった。 ヒントカードを活用しての学習は促せたが、それを生かした個々に合った学習の仕方を理解できるような支援が課題である。公式利用は、正確にできるようになってきたので、応用問題などへの対応として、段階をおって練習を繰り返すことで対応力を身に付けていく。

実践事例４　（中学部）

科目名	理科
単元名	運動の向きと速さ 単位付きの計算
期待する児童・生徒の学びの姿	・ワークシートを中心に見通しをもって学習する。(主) ・単位つきの数字の計算方法が分かる。(深)
教員の働きかけ・手だて	・覚えることは最終目標として伝え、ヒントカードを使用しながらでも、適切に理解して解くことに重点が置けるよう促す。 ・解法について、スライドを活用し、継次処理で順を追って示し、併せて口頭で解説していく。
ICT活用ポイント	ワードやパワーポイントによるコントラストや色合いを意識しアニメーションを活かした自作教材を活用し理解を促す。（①ワークシート、②ヒントカード③スライド） 特にスライドはアニメーションや音も加えて、注目して欲しい箇所のみを動かしたり色を変えたりするようにし、スライドで使用したものをそのままヒントカードとしても使用した。
活用アプリ・ＩＣＴ機器	活用アプリ…ワード、パワーポイント ICT機器…タッチパネル搭載大型モニター、タブレットパソコン
活用場面（実践の様子・画像）	 いつでも目にすることができるようにと伝えると、筆箱に貼って活用できた。 生徒自身で適宜加筆すること 動かす必要のない部分と、順を追って色を変えながら移り変わっていく部分とを分けて、アニメーションを行き来しながら、説明する場面や必要に応じてそれぞれを明示した。 
指導者コメント	この単元での単位付きの数字の計算で使用したヒントカードは、手元でいつでも目にする場所に貼ると効果的と伝えると、貼ることができた。また、このヒントカードに載っていないものは、随時書き加えるように伝えたところ、いくつか書き込むことができた。授業中では、ヒントカードを適切に使用できており、ボロボロになった今でも、そのとき出来るようになったのが嬉しかったようで、継続して活用している。 授業実践で扱った練習問題では、ヒントカードを適切に使用できており、授業後に行ったアンケート結果でもよく理解できたと記述していた。期末試験等においても、テスト対策プリント等はなくても、高得点することができた。 パワーポイントのスライドでは、同時に全部の情報を提示するのではなく、今どこに着目するべきかが分かるように、部分的に素早く切り替わっていくことに意識して作成及び利用したことで、生徒の理解と学力の定着につながった。また、視覚的かつ継次的に提示する中で、スライドと同じデータを使用して、ヒントカードやワークシートなどの生徒の手もとの資料も作成するため、色や形など見た目が同じもので、生徒が利用しやすく、定着を図ることができた。

実践事例５　（高等部）	
科目名	コミュニケーション英語Ⅰ
年間目標	・求められる英文を正確に書くことができる。 ・英語の音からそれに近い文字を想起することができる。 (例：readであれば1文字目が「l」 か 「r」 かなど、近いところまで想起できる)
期待する児童・生徒の学びの姿	・課題解決のために必要なことや、求められていることを探し出そうとしている(主) ・これまで学習した経験、情報を活かしている（深）
教師の働きかけ・手だて	・パソコン入力を活用し、ワードを使う。書きの苦手な生徒への支援を行う。 ・一度に画面に表示する情報量を話し合って減らし、注目する箇所をしぼる。 ・得た情報などを活用できるように個々に応じた解決方法を確認しながら生徒自身にもその都度フィードバックを行う。
活用アプリ・ＩＣＴ機器	ICT機器…パソコン2台、WEBカメラ、スピーカー 活用アプリ…ワード、Zoom
ICT活用ポイント	・Zoomによる教室と別室の接続…病状に対応した授業が可能。 ・Zoomの画面共有…クラスでの共有、教員のコメントのしやすさがある。 ・Zoomのチャット機能…体調に合わせて教員からの連絡を見ることができる。 ・ワードのコメント機能…メモ代わりに使用、不注意による散乱したメモになりにくい。
活用場面（実践の様子・画像）	
指導者コメント	・Zoomとワードの既存機能を活用し、生徒にとって学びやすい環境ができた。 ・ワードのコメント機能を活用することで筆記の負担を軽減するとともにメモを取ることを継続できた。 ・Zoomの画面共有を用いることで生徒同士が互いに質問しあったり議論をしたりなどすることができ、離れていながら対話的な学びの機会を保障することができた。 ・わからない単語をインターネットを活用して調べる様子をクラスに共有したことでクラス全体に分からないことを自分で解決しようとする習慣が身に付いた。

実践事例６　（高等部）

科目名	国語総合
単元名	史話を読む「三国志」の人々　蓋頭上題合字
期待する児童・生徒の学びの姿	・書き下し文と現代語訳をお互いに相手の読みに合わせて読むことができる。（対） ・登場人物がとった行動について、その意図を理解しようとしている。（主）
教員の働きかけ・手だて	・2名以上の場合はペアになって書き下し文と現代語訳の対応する部分を交互に読み合うように声をかける。 　Zoomで読み合う場合は、教室側の生徒にスピーカーの近くで読ませる。Zoomを使用した遠隔授業の場合、モニターで生徒の様子を見ながら声掛けをして、進捗状況を確認する。 ・一人一つは自分の考えを出す。自分の考えを出すことが難しい場合は他の生徒から出た考えについてどう思うか聞き、発言を促す。
ICT活用ポイント	・教科書の本文を前の電子黒板に映し、全体で確認することができるようにする。 ・Zoomで遠隔授業をうけている生徒の様子を小さいモニターに映し出すことによって、音声だけでなく、視覚的にもお互いの様子を確認することができ、授業を受けている実感をもちやすい。
活用場面（実践の様子・画像）	 写真①　板書の様子 写真②　デジタル教科書
活用アプリ・ＩＣＴ機器	ICT機器…パソコン、電子黒板 活用アプリ…Zoom、デジタル教科書
指導者コメント	ワークシートの内容は、書くことに課題がみられる生徒がいることから、苦手意識を軽減させるため、書く量を減らすことで取組やすい内容にした。（写真①）その分、生徒は本文の内容をじっくり読まなければ、解けない問題のため、生徒一人一人が個人で考える時間を設けることができた。その後、教科書の本文を前の電子黒板で映し、内容をタッチペンを用いて確認しながら、全体で登場人物がとった行動と意図を共有し、内容を理解することができた。（写真②）

「主体的・対話的で深い学び」学び方シート （2020）

※このシートは、先生方が授業を組み立てるうえで、「主体的・対話的で深い学び方」ができる授業になっているかを確認するためのシートです。指導案を作成する際にご活用ください。

項　　目		具体的な姿（参考例）	R1 追加　具体的な姿（参考例）
主体的な学び	①授業を受ける準備が整っている	授業に出席している	
	②自ら気づいて行動する	できる活動を選んで参加しようとしている 役割を見つける 自己選択・自己決定している 必要なことをメモする	既習事項を生かしつつ、資料を活用するなどして学びを進めようとしている 必要な技能を身につけようと自ら気づいて行動する 学習内容を学ぶ意義がわかり、課題に取り組んでいる
	③疑問をもったり、課題発見をしたりする	学習事項に疑問や考えをもって取り組む	自ら調べようとしている 必要なことや、求められていることを探し出そうとしている
	④諦めず根気よく困難な課題にも挑戦しようとしている		
	⑤授業に興味、関心を示している		きまりを守って自主的に運動しようとしている 興味・関心をもって運動に取り組もうとしている 興味・関心をもって実験に取り組もうとしている 教材に興味・関心をもっている 自ら進んで実験・記録をする 自分のめあてをもって清書までの練習枚数を決めて、意欲的に書こうとする 様々な動きを組み合わせて楽しく体を動かそうとしている 物事の仕組みについて聞き、簡単な言葉や動作で示そうとする
	⑥授業に見通しをもつ		ワークシートをベースに見通しをもって学習する 自分で清書までの練習枚数を決める
	⑦必要なことや、求められていることを探し出そうとしている	プリントや教科書、インターネットや書籍からキーワードを探している	数のしくみや公式を理解し、計算することができる カードを利用して必要なことを自分で探して、意欲的に活動に取り組む 本時に学習した漢字を、たくさんある漢字の中から正確に選ぶ 自分の考えを述べたり、本文を読んで分かったことを伝えようとしたりしている 資料の中から必要な情報を適切に判断する
対話的な学び	①発問に対して答えている	質問に対し自分の考えを答えている	自分の考えを言う 表現を工夫し、思いや意図をもっている
	②自分の考えを多様な表現で伝えようとしている	本時で分かったことを教員や友達に伝えている 自分の意見を話すまたは書く	自分の考えを言葉で表現する 自分の言葉で説明しようとしている 自分の考えを述べたり、本文を読んで分かったことを伝えようとしたりしている
	③互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている	教員を介して友達とのやり取りを広げる 良い点を褒めようとする 他者の意見や考えを聞こうとしている	互いの思いや考えを伝え合う
	④自分の考えとの相違点を認識する	友達や教員と話しながら自分の考えと似ているところ、違うところを探す 意見交換をし、友達の思いに気づく	
	⑤課題を解決するために他者と関わろうとしている	友達や教員と協働して課題を解決する	友達や教員と一緒に調べている
深い学び	①様々な視点で考えている	ものの見方を広げている	ものごとの在り方や考え方について多角的に考察している
	②経験、情報を活かしている	知っていることや手元にある情報を関連付けているほかの知識（情報、意見など）から考えている	理由について学んだことを活かして自分の考えを述べている 体の使い方を意識して取り組もうとしている 資料の中から必要な情報を適切に選び取ろうとしている
	③他教科の学びを活かしている		
	④学んだことを伝わる形（発表、音読、作文など）で表現している		学んだことを発表している
	⑤学んだ知識を概念化する	「あ～。そういうことだったのか」 習った知識が深まる、気づく	
	⑥学んだことから新たに課題をみつけている		自己の課題に気づく
	⑦振り返って次につなげる		
	⑧自分に合ったツールを使ってまとめたり、考えようとしたりしている		授業の振り返りをタブレットで文字入力する等、自分に合ったツールを使ってまとめようとしている
	⑨学びの面白さを実感し、次の意欲につなげようとしている	達成感を得たり、前向きな気持ちを示したりしている	
	⑩予想したり、仮説を立てたりして思考を深めている		

授業内容シート２０２０<小学部>(抜粋)

教科	項目	本時の授業のねらい	期待する児童・生徒の姿	使用したICT機器	アプリ・ソフト	本時の児童・生徒の様子	成果・課題
算数	主・対	・三角形の内角の和は180度であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めることができる。	（主）ア～オの二等辺三角形では３つの角を足すと180度になることに気付き、表の一番下の項目に「和」を書き込んでいる。 （対）友達や教員と三角形を交換し合い、一緒に調べている。	モニター iPad	GoodNotes なん度？	・モニターを見ながら、教科書の表に書き込むことができ、児童にとって分かりやすかった。 ・「GoodNotes」を使えば、ものさし要らずで簡単に三角形を描くことができた。 ・「なん度？」を使うことで、教科書の練習問題よりも主体的、意欲的に学習できていた。	・「GoodNotes」で予め順を追って表を作成しておくことができ、板書よりも時間を短縮できた。 ・家でも児童自身が「なん度？」をインストールし、夢中になって取り組んでいる様子が伺えた。 ・表の見方を示す時に、注目してほしい部分を赤い線で囲むなどもう一段階設けていれば、児童自身の発見にできたかもしれない。 ・「なん度？」をやり始めると、最後までやりたいという気持ちから途中でやめることが難しかった。
社会	主	・地図記号の意味を知る。 ・地図記号や校内地図などの情報を手掛かりに、先生と一緒に校内の様子を調べることができる。	・地図記号の意味を知り、校内にある地図記号を見つけたり、写真を撮ったり、先生と一緒に校内調査に取り組めている。	パソコン モニター	パワーポイント	・主な活動を校内探検としたことで、教室以外の場所に出かけることができ、これまでに行くことがなかった３階の階段の踊り場まで先生と一緒に上がることにチャレンジできた。 ・自分の教室がある1階では、一人でも探検に行くことができ地図記号を一つ見つけることができた。	・パワーポイントを活用して学習活動の具体的な内容にイラストや写真を添付し、視覚的に伝えることで落ち着いて最後まで話を聞くことができていた。 ・動きのある学習内容を設定することで、関心をもって取り組んでみようとする児童の姿がみられた。 ・予想外のことが起きることを前提に、起きた時の対応についてあらかじめいくつか準備しておく必要があった。 ・情報量が多かったために、めあてや重視したい内容が不明瞭となった。
理科	主	・植物の生長と水の関わり 水が葉のどこから水蒸気として出ていくかがわかる。	・動画を通して実験方法を知り、葉の表面を顕微鏡で観察することができる。	パソコン モニター	デジタル教科書 パワーポイント	・根からとり入れた水は水の通り道を通って植物の全体に運ばれることを知っており、「水は葉から空気中に出ていく」と予測した。葉の表面の薄皮をはがしてプレパラート作りに意欲的に取り組み、（顕微鏡の操作は教員が行う）気孔を見つけてスケッチすることができた。	・植物の水の通り道は、色水の実験ができていなかったが、動画を見ることで理解ができた。実験方法の動画は効果的であり、実際に役立てることができた。パワーポイントに実験画像を取り込み、授業の流れをまとめたもので振り返ることも理解の助けになっていた。最後に提示した発展的な問題の画像にも興味をもつことができて理解を深められた。
家庭	対	・朝食を食べて元気に 朝食の役割を知り、朝食づくりの計画を立てることができる。	・朝食の役割を知り、朝食づくりの計画を立てて、自分なりの献立をワークシートに記入することができる。	パソコン モニター	パワーポイント YouTubeの 調理動画	・朝食のおかずとして「じゃがいも炒め」を例にあげて作り方の動画を提示されると、材料の切り方や味付けの調味料などをつぶやきながら興味をもって見ていた。促しに応じてワークシートを記入した。	・今年はコロナの影響により調理実習ができないので、調理動画を見ることは調理への関心、知識・技能を高めるうえで欠かすことができない有効な活動である。短く編集された動画は繰り返しの視聴が可能で、実習で起こりがちな失敗もないので、味わうことはできないが実技とは違った良さがある。

授業内容シート２０２０＜中学部＞(抜粋)

教科	項目	本時の授業のねらい	期待する児童・生徒の姿	使用したICT機器	アプリ・ソフト	本時の児童・生徒の様子	成果・課題
理科	主・深	電離のようすを、イオン式を使って表す（電離式を書く）ことができる。	・ワークシートをベースに見通しをもって学習する。 ・メソッドやイオン式の表を見ながら電離式の表し方が分かる。	パソコン 大型モニター	ワードや見やすさと分かりやすさを重視した文字が少なくシンプルな自作パワーポイントのスライド	・ワークシートで今どこをやっているかを確認しながら、メモや板書ができていた。 ・スライドをよく見ていて、要所でのこちらの質問に答えることができていた。	・スライドのアニメーションによって、イオンの成り立ちが理解できていた様子が見られた。 ・授業後の生徒アンケートで、スライドを用いた説明が分かりやすかったという結果であった。
英語	主・深	・間違うことを恐れず、自分の「好きなもの」等について発表する。	・間違いを恐れず、発表に取り組もうとしている。 ・相手に伝わる発音と声量で話をしようとしている。	モニター iPad	デジタル教科書 keynote	・最初に授業中のルールを伝えることで、体調不良の時でも授業に参加することができた。 ・iPadやワークシートを利用することで学習内容の定着がみられるようになってきた。	・文法事項の確認に、iPad（keynote)等を使うことで、語順の違いに気づくことができた。 ・デジタル教科書を使うことで、一緒にその機能を楽しみながら学習することができた。 ・授業中のルールを意識することができている。
自立	主・対	・たくさんの気持ちを表す言葉を知る。 ・同じ表情でも人によって気持ちは違うことを知る。 ・自分の気持ちを言葉で表現できるようになる。	・自分の意見を積極的に発表し、友達の意見も取り入れることができる。 ・自分の気持ちを言葉で表現できるようになることの大切さを知ることができる。	パソコン 大型モニター	視覚認知トレーニングソフト	・ビジョントレーニングでソフトを使ったが、最初の導入という点では効果的に使用できたのではないか。 ・大型モニターに「いろいろな気持ちの顔」を書いてもらったが、スムーズに生徒も抵抗感なく使うことができてよかった。	・ワークシートをモニターに写しTVモニターで入力すると生徒にもわかりやすく、実際に生徒が入力する場面を設けることで授業に動きも出て意欲的に活動ができると感じた。
数学	主・深	・2乗して2になる数を求めることの大変さを授業の課題を通して知る。	・ワークシートを参考に見通しを持ち課題に取り組む。(主) ・正方形の面積の公式から2乗して2になる数を考える。(深)	パソコン モニター	パワーポイント	・主体的に考え、課題に取り組み、ワークシートに記入することができていた。 ・2乗して2になる数を求めることの大変さを感じることが出来ていた。	・スライドの字が小さく生徒が見えにくい場面があった。 ・表を最後まで埋めず中途半端な板書になった。 ・図形を提示することでイメージしやすく、スムーズに課題に取り組めた。 ・流れを示したが、どこを学習しているか明確にする必要がある。
音楽	主・対・深	基礎的な奏法を身に付け、曲想を感じ取って表現しよう！	音楽表現をするために必要な技能を身に付けようと自ら気付いて行動する。	パソコン 大型モニター iPad	ガレージバンド	・技能を身に付けようと自ら指使いを工夫したりメトロノームを効果的に使用したりと取り組むことができていた。	・演奏したものが同時に録音できることやすぐに再生して振り返ることができ、技能の向上に役立った。

授業内容シート２０２０＜高等部＞(抜粋)

教科	項目	本時の授業のねらい	期待する児童・生徒の姿	使用したICT機器	アプリ・ソフト	本時の児童・生徒の様子	成果・課題
体育	主	・みんなで協力しドローン大会を成功させよう。	・役割を引き受け果たそうとする。	パソコン 大型モニター ドローン ドローンコントローラー iPad 電光掲示タイマー	ドローン操縦アプリ スコアボード	・役割を積極的に立候補し、生徒が中心となって進めることができた。体調不良や途中転入の生徒は参加するだけで精一杯で、役割を立候補はできなかったが、チームの中の一員として、得点の報告やドローンの故障（接触してプロペラを外れたのを直す）の手助けをしていた。	・ドローンは２台以上一緒に飛ばすと、混線し操縦に支障が起きる。体育館でドローンを一度に４台飛ばすのは厳しい。 ・コントローラーを使用する為には携帯電話が活用しやすい。 ・生徒の実態に応じて、iPadを使い操縦することができる。
現代文B	主	小説「ナイン」井上ひさし ・社会の変容に伴う人間関係の変化と時代を超えた信頼や友情について考えを深める。 ・登場人物同士の関係を捉え、それぞれの言動の背後にある心の動きを読み取る。	・必要に応じてiPadや国語辞典といった教具や資料を活用するなどして学びを深めていこうとする。	パソコン iPad	デジタル教科書 筆順辞典	・学習に対して意欲的であり、知識のみならず、読む・書く・思考するなどの学習技能・能力も向上しており、それに対して素直に喜ぶ様子が見られる。	・概ね計画通りの授業ができた。生徒は意欲的に学習ができており、必要に応じて国語辞典を引いたり、iPadや学習系タブレットを使用して漢字の筆順を調べたりデジタル教科書を拡大して見やすくするなど、その技能・能力も向上してきている。より効果的な個別の支援の在り方について、続けて工夫していきたい。
コミュニケーション英語Ⅲ	主	・自身の知識を生かして英語で考えることができる。	・教員の問いかけをヒントに既知の単語が活用できることに気付き、課題解決に結びつける。	iPad	keynote	・iPadを用いることで、英文の並び替えの活動の負担を減らしながら行うことができた。意欲をもって取り組むことができていた。	・初めての活用で生徒自身が操作に戸惑うことがあった。画面が早く切り替えられるなどのICT教材のメリットと使い方が分かりやすいアナログ教材の両方のメリットをバランスよく取り入れて授業を行いたい。
SST	主・深	・自分の立てた目標に沿って、相手に伝わる自己紹介をする。人の話を適切に聞く。	・相手に伝えようとする意欲や人の話を聞く態度を身につけようとしている。	パソコン モニター ぼうけん君	パワーポイント	・自分で場面に合った内容を考えて練習を行い、発表することができた。	・時間に余裕をもって学習したため、個々の実態に沿ってしっかり内容を考えることができていた。それぞれ堂々と発表することができた。また、人の話を聞く態度も適切であった。 ・自己紹介の際、気をつける視線や話し方について画像で確認することができた。 ・コロナの感染拡大が心配される時期だったので、発表は廊下に出てマスクを外して発表した。ぼうけん君を通して顔の表情も見ることができ、伝わりやすかった。発表生徒も一緒に振り返りができた。

「主体的・対話的・深い学び」を充実させるための授業改善について
（教師の工夫・手立て・しかけ）

	導入	展開	まとめ
主体的な学び	**課題の提示** 〔学習の流れの提示・視覚化〕 ・見通しがもてるよう授業の内容・順番など学習の流れを提示し、視覚化する。 ※パワーポイントを使うこともあるが常に見えるように提示する。 ・本時で何を学習するのか分かる明確なめあてを示す。 ・課題の確認ができるように課題を提示する。 ・教科書・資料・プリントなど、取り組む教材の順番を提示し、見るところを明確にする。 ・授業の最後に次時内容を伝え、学習の見通しをもたせる。 **ルール** ・本人が注目している時に、内容がきちんと分かるように、ルールはできるだけ先に伝える。 **興味関心（教材）** ・興味がある教材を選択する。 ・実際に手に触れられる物など具体物を使う。 ・カードには目標を明記して、常に確認できるようにする。 ・子どもがなぜ？と疑問をもつ教材を提示する。 例）どうなるのだろう、どうしてこうなるのだろう、何があったのだろうなど。 ・スライド又は動画を見せ、シンプルな発問から深い学びにつながるように、思考に負荷をかけた発問へと広げる。 ・課題の時代背景に関心をもたせるために、NHK-for schoolなどの視覚教材を活用していく。 ・課題の何かおもしろいエピソードなど毎回伝える。 ・選択肢を視覚化する。 ・授業内容に関係する図などを提示する。例）TVモニターなど。 **興味関心（題材）** ・興味関心のある単元題材を設定する。 ・興味をもてるような題材の提示・発問の工夫をする。 例）子どもたちの興味関心、身近な課題、生活場面、既習学習との相違点など。 ・学習に興味関心をもてるよう題材に関する予想やクイズなどを行う。 （本文で学習する内容以外のことを提示するように気をつける。） ・「これは何？」など本時に関係する興味関心を引く内容で導入の示し方の工夫をし、スタートする。 例：Google Earthで地図、画像の一部、曲の一部、キーワードなど。 **前時の振り返り** ・パワーポイントなどでポイントを絞って、前回の学習を必ずリピートし、復習をする。 **自己選択** ・授業のルーティンを作る。 ・今日のめあてを確認する。 ・プレゼンテーションソフトは何を使いたいか、最初に自分で選ぶ。例）ソフトを紹介し、選択するなど。 ・学習方法を自分で選ぶ。例）ワークシートでドリル、実際に使ってみる、教科書を読むなど ・本時の授業のねらいの中で、自己決定する場面を設定する。例）ショートサービス、ロングサービスなど。 **予想** ・理科実験などの時に、自分なりに予想する。 ・経験から本人の結果を予想する。 ・どのような結果が予想できるか、イメージを発表する。 **その他** ・子どもの体調を把握する。 ・先ず何よりアイキャッチする。 ・問いの設定を明確にする。 ・隙間時間に下学年の内容をミニトレーニングして自信につなげる。 ・バランスボール等、感覚へアプローチする。	**解決方法（iPad）** ・解決のヒントは何段階か準備しておき、必ず自分で答えを導けるような手立てをする。例）Yes/No質問から具体的に掘り下げるなど。 ・何をどう調べればよいか、調べ方が分かるような手立てをする。例）iPad…検索の仕方など ・iPadを1人が一台使えるようにして、分からない時に自分で調べる。 **情報提供** ・iPadで検索し、発表する。例）検索ワードは３つとし、2つはこちらが提示するなど。 **解決方法** ・アプリを活用する。例）作文：縦書きエディタ、漢字：筆順辞典、地図：社会のクイズなど。 ・手順表を複数準備する。（同時・継次処理） ・参考作品の他、説明にも写真・イラスト・音楽を取り入れる。 ・自分で解決できる状況を作る。 ・計算が苦手だったら立式すれば良いとわり切って、アプリで計算する。 ・考えることが難しい場合は、選択式や穴埋めにして取り組みやすいようにする。 ・個の能力にあった支援をする。 例）ヒントカード、九九表、書く量など。 ・導入で見えてきた課題解決のためのいくつかのうちの一つを実際に教員が手本を見せて、児童生徒が同じようにやってみる。 ・導入で見えてきた課題解決のための方法を児童生徒が選択する。 **パターン化** ルーティンがある中で、少しずつ違うことを取り入れる。 授業の展開をパターン化する。（板書、流れ、書く活動、読む活動） **その他** ・考える時間をタイマーで示す。 例）子どもによっては、3分、1分、30秒、10秒と細かくカウントダウンして本人が終わりをつけやすくする。 ・動画の視聴（10分）をした後、ワークプリントへ記入する。 ・集中して覚える活動（1分の単語を覚える時間）を設け、スライドで視覚的に分かるようにする。例）1分後イラストが出るなど。 ・少人数なので対話ができるクラスが少ない。教員との対話のみの授業も多い。少ないので話しやすいこともある。	**まとめ方** ・目標に対するまとめ自分が立てた目標に対して、今日の自分がどうだったかをふりかえるシートを準備する。 ・児童生徒が振り返りシートに記入し、教員が個々の良かった所などを評価し伝える。一緒に課題を確認し、次時の意欲につなげる。 ・今日学んだキーワードをいくつかの単語で示し、児童生徒が文章にできるようにする。 ・自分の気づきをまとめる。 ・子どもの実態に応じた振り返りを行う。例）（　　）でも、○×でもiPadで、自分でまとめるなど。 **トークン** ・シールを渡す。 **次回の予告** ・生徒の興味のある画像（映像）を用意してそれにまつわる教科的なからみで（導入）次回の予告をする。 **学力の定着** ・「本時のまとめミニテスト」の後、次時に「振り返りミニテスト」を行う。内容は同じがよく、「できた」を積み重ねる。

	導入	展開	まとめ
対話的な学び	・生活に関連した科目の時は、生徒がかまわない範囲で実態を発表できればしてもらい、お互いの学びとしていく。 ・個々の取り組みを確認する。 ・先生と生徒役をかわる。 ・子供と相談して、取り組む終了時間を決める。 ・そのものにこめられた制作者の思いを読み取る。 ・今日は、友達とこの問題解くよ、と宣言する。 ・それぞれが立てた目標をみんなで見聞きする。 ・スライド一枚でつくり、前時の学習が一目で分かるようにする。 ・特に新出語句などを空欄で示す。 ・自分の問題意識を具体化して、単元・題材を設定する。	・既習事項との関連を見つける。 ・内容を深める。 ・発問や児童からの質問について、インターネット等で検索する。 ・答え合わせは隣りの人と交換して行う。 ・これまでの学習で扱かった定理・法則で説明がつくか考える。 ・グループ学習を活用する。 ・子供の意見をPPTなどで文字にして提示する。 ・迷っているところに対して答えを見出だせるように、選択できるように発問する。 ・交流する場面を設定する。 ・他者を意識した話し方や聞き方のスキルを大切にし、評価する。 ・ペア活動の際の手立てをする。例）スモールステップ、役割、話す手順、話したい内容を可視化するなど。 ・相手に応じた練習をする。例）ペア学習、バドミントンのラリーなど。 ・質問が出た内容から調べ学習につなげる。 ・友達の意見に対する反応や発言を拾って進める。 ・「自分なら」と予想して書く。 ・筆者・事実と比較して相違点を知る。 ・iPadで作成したものを児童生徒一人一人がモニターにつないで発表する。 ・表現方法のバリエーションを工夫する。例）口頭、絵、作品、ICTの活用、一人、ペア、グループなど。 ・解き方の話し合いをする。 ・意見を出し合って、お互いの意見を共有する。 ・個人活動のあとのペア活動をする。直接できない時は、遠隔で行う。 ・板書でシェアし、友達の意見について感想をもたせる。 ・身近な内容を取り扱う。 ・発表する機会を設定する。 ・教科書の中の他の意見を活用する。例）過去の子供の考えを伝える、あらかじめ他の意見を準備しておくなど。 ・少人数で多様な考えが出にくい時が多いため、自分の考えを導きやすいように例文はたくさん用意して紹介する。	**既習事項** ・習ったことを言葉にして伝える。 ・習ったことで何か気付いたことを言う。 ・自分の言葉で本時の学習内容（結果）をまとめる。 ・お互いのできたことや頑張っていたことをメッセージカードでやり取りする。 ・友達と関わりを大切にする。 例）共感・感動など。 ・学んだことの価値づけを図る。 例）自己・友達・教員など。 **動画** ・活動している姿を動画で撮影しておいて、みんなでどうだったか見合う。 **考えの相違** ・友達同士、生徒と筆者の考えの違いを振り返る。（内容を正確に把握し、次の時間へつなげる。） ・教科書を読んでまとめる。（他者の考え方を知る。） ・まとめを伝えることができる。 **評価** ・評価（称賛）素早くその都度行う。 ・友達の評価を聞いてみる。（お互いを評価しあう。） ・授業の中で生徒のよかったところを褒める。

	導入	展開	まとめ
深い学び	**既習事項** ・今までの既習事項を総動員したものを提示する。これを使って（複合的に）問題に取り組む。 ・応用力・思考力を必要とするクイズ的な課題をいくつか準備する。 **理解** ・具体的な例をいくつか提示し、本時の学習課題を理解する。 ・思考を必要としない作業（色で分ける・形で分ける）を繰り返しながら、複雑な課題に導く。 **経験** ・自分の経験から、学習の予想を立てようとしている。 ・子どもの経験している事例について、動画や写真を見せる。 **前時** ・前時と比較する。例）つながり・ちがいなど。 ・前時の学び（児童生徒の感想等）からの導入を工夫する。	・本人にとって必要性の高い課題に気付ける場面を設定する。 ・その子にあったヒントを細かくして出す。 ・考える場面を設定する。 ・問題解決方略を考える。例）なぜイオンになるのかなど。 ・他教科の既習内容を取り入れる。 ・生活に関連した内容を取り入れる。例）拡大と縮図地図上の長さから、実際に家までの距離を考えるなど。 ・習ったことを使う場面を設定する。 ・例文を参考に、自分で単語などを入れ替えて文章を作る。例）身近な文章、実践的な文を例にできるようにするなど。 ・発表する中で、他者との考えの比較をする。例）〇〇さんの考えは・・で私と・・・・など。 ・定着するような活動をする。 ・辞書、図鑑、インターネット等調べられる環境整備する。	**次の課題** ・次の課題が見える、次時に学びたいこと、調べたいことの課題を設定する。 ・自己目標を考えて決める。 **思考** ・思考のまとめをする。 ・習ったことのまとめプリントを作成する。 ・何をどう使って解決したいのか発表する。 ・「〇〇をして～ということが分かった」と根拠を示して理解したことを説明する。 **振り返り** ・個々の振り返りをする。 ・タブレット型端末を使って振り返り、まとめをする。 ・学習感想（分かったこと、分からなかったこと、学習したことなど）を次の時間につなげる。 **視点の転換** ・別の方法はないか考える。 **応用** ・少し難しい問題にチャレンジする。例）解けるかな？など。 **評価** ・評価（育てたい子どもの姿）は育てたい資質・能力で考える。 例）知識・技能、思考力・判断力・表現力、人間性・主体性など。

特別支援学校（聴覚障害）

研究の概要　　高知ろう学校（聴覚障害）

１　研究の目的

聴覚障害児童生徒のコミュニケーション力の向上に向けた手話力の育成と授業におけるICT機器の活用に取り組みながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の改善についての研究を行い、幼児児童生徒の学力の定着・向上、更には生きる力の習得につなげる。

２　研究仮説

手話力の向上を図るとともに、ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を研究することで、教員の聴覚障害幼児児童生徒への指導力を向上させ、児童生徒の学習意欲及び学力の向上を図ることができる。

３　「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた取組

（１）聴覚障害のある幼児児童生徒にとってのICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」についての公開授業実施

ア　タブレット型PCを使用して授業の録画による検証・授業改善を行う。

イ　高知ろう学校授業スタンダード票を用いて、聴覚障害教育においての基本となる配慮事項のチェックを行う。

ウ　授業改善シートで評価を行う。

エ　学力の向上を検証する。

（２）聴覚障害教育における「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」について整理した授業改善シートの作成

（３）ICT機器の活用に関する研修の実施

（４）教員を対象とする手話研修会と手話検定の実施

（５）ICT機器活用事例集の作成

４　まとめ

３年間の研究の成果として、２点挙げられる。

１点目は、主体性を引き出す授業の実現ができた点である。画像、映像による学習への動機付けを図り、興味関心を高める授業を行うことができた。電子黒板の活用が当たり前となり、視線と表示が一致することで学習効果を上げ、学力向上につなげることができた。また、タブレット端末によるフラッシュ型教材の活用が進み、効率的に知識の定着を図ることができた。

２点目は、ICT機器活用技術が向上した点である。子どもたちは、分からないことをすぐに調べられるという利点によりインターネットの活用が習慣化し、子どもたちの知識が広がった。知

識が広がることで、もっと知りたいという意欲が引き出されるようになってきた。短時間で理解定着ができることが増え、よく分かる授業が実現することで、生徒の発言が活発化した。このように一人一人の力を伸ばす活用ができた。

本校はこれまでも『豊かなコミュニケーション活動を基盤とした「分かる」「できる」学習指導の工夫』として、言語活動を重視し、対話を通して子どもたちの生きる力を育成してきた。聴覚に障害のある子どもたちにとってICT機器は、聞こえにくいことに直面する様々な困難を越えて生活を快適にし、学びの集団を広げられる可能性もある。情報が入りにくい子どもたちにとって、
ICT機器の活用が興味関心を高めるだけに終わらず、主体的な行動へとつながるように導いていく必要がある。

3年間の実績を生かし、学びのゴールを意識した授業を組み立て、提示型から活用型へ広げながら、確かに伝え合える豊かなコミュニケーションを目指してきた聴覚障害教育の専門性を大切にしながら、生きる力を育んでいきたい。

（1）成果

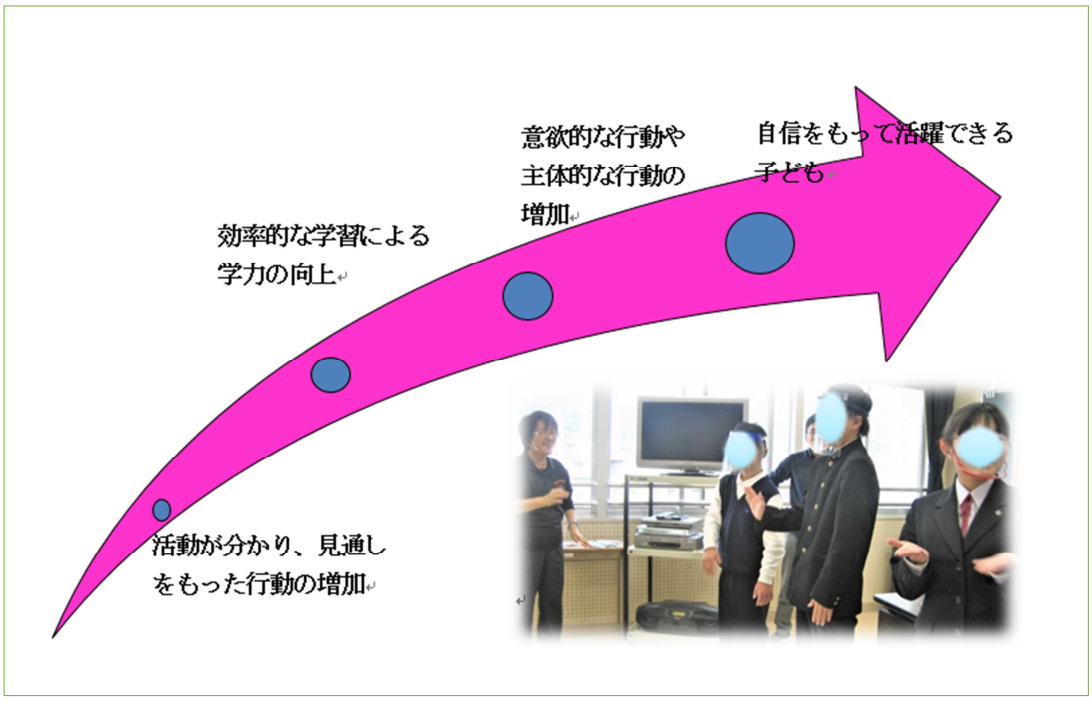
手話力向上については、年８回の研修会を実施し手話検定を行い、外部専門家から評価を受けた。手話検定では、受験した教員全員が昨年度より一つ上の級を取得した。２年目以上の教員で行事や式典等での手話を担当したことで、手話力が向上した。行事や式典等で手話通訳等情報保障が必要な場合、100％の配置が実施できた。手話力の向上に関するアンケートでは97％の教職員から「向上した」「やや向上した」という結果を得ることができた。

教員のICT機器活用技術が向上することで、児童生徒等がICT機器を使う場面が増え、短時間で理解定着ができることが増え、よく分かる授業が実現した。生徒の発言が活発化し、一人一人の力を伸ばす活用ができた。

遠隔授業、校内研修会、手話研修会等でオンライン会議システムを活用し、教員がオンラインでコミュニケーションを行う力が身に付いた。また、聴覚障害のある教員が配置されたことで、音声認識アプリUDトークの活用が教員間を中心に進んだ。音声認識率が100％でないため、授業での活用はまだであるが、今後技術がさらに高まることで、式典等での活用が進むと考えられる。研修会の実施や行事や式典での手話通訳、要約筆記による情報保障を教員全員で担当することにより、技術や意識が向上しつつある。

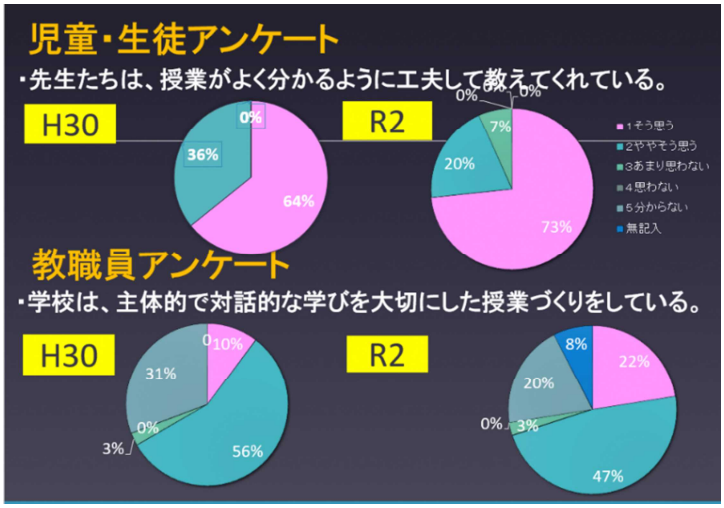
授業づくりでは、高知ろう学校授業のスタンダード票と授業改善シートを活用し、主体性を引き出す授業の実現ができた。教員の聴覚障害教育における「主体的・対話的で深い学び」を実現していく意識が向上し、その結果、幼児児童生徒の探求心が芽生え、意欲的な行動や主体的な行動が引き出された（資料1)。高等部産業技術科では、データ記録を活用することで、気付きが客観的にでき、技術の習得が加速した。ソーシャルトレーニングでは、見えない気持ちを映像にして取り扱うことで、客観的に見ることができ、気づきが増えた。児童生徒等がICT機器を使う場面が増たことで、自分自身のことや周囲のことなど、いろいろなことに気付ける

ようになり、そのことが、自主的な行動へつながり、自信につながっている。



（資料１）子どもの変容

生徒アンケートや教職員アンケートでの数値が向上した。（資料２）生徒アンケートでは、平成30年度に比べて、「先生たちは、授業がよく分かるように工夫して教えてくれている。」の項目で、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が73％で、９ポイント増えた。



（資料２）学習評価アンケートより

教職員アンケートでは、「学校は、主体的で対話的な学びを大切にした授業づくりをしているか。」の項目で、「そう思う」と回答した人が22％で13ポイント増えた。

（２）課題

現在は、タブレット端末が共有のため使いたい時にすぐ使えないこともあること、生徒がPCを使用する場合にも、コンピューター室へ移動するなど、いつでもどこでもすぐに学べるツールにはなっていない。また、授業では、活用状況から見て教員主導で子どもたちが自由に使える場面は多くない。

今後は、学び続ける意欲を育てるためにも、協働学習、他者と共同して使うICT機器、他者とのコミュニケーションのためのICT機器活用、他者と学び合える環境づくりを工夫し、思考

を広げていく必要がある。聴覚障害のある子どもたちにとって、コミュニケーションの可能性を広げる使い方を考えていきたい。GIGAスクール構想に向けて、授業の中の決められた時間に使うだけでなく、学校生活全体において、子どもたちの発想力を生かし、アイデアを組み立てる手段として自由に試行錯誤できる道具として、活用の仕組み作りが必要である。さらに、授業だけでなく、学校生活全体や家庭学習でもICT機器を活用していくという教員の意識改革が重要である（資料３）。

（資料３）今後の課題

また、高知ろう学校授業のスタンダード票の取りまとめから以下のことが課題として残った（資料４）。

項目	達成率	考察
子どもに適したコミュニケーション手段を活用している。子どものよいところを見つけて認める。	90%以上	個々の実態を把握し、コミュニケーションをとり、子どもを肯定しながら授業を展開することができていた。
自分と異なる友達の意見や考え方に接し、ものを見る観点や考え方を広く深め合う指導ができている。	約60%	生徒数減少のため、指導に取り入れにくい。 異なる考えに接していける環境をどのように作っていくかが課題である。
ICT機器を生徒が活用する場合、子どもの思考につなげることができている。	約20%	子どもが活用する場面はまだ少ない。新しい子ども像を描き、どのような授業を作っていくのかを教師自身が深めていく必要がある。
揺さぶりやさそいかけなど、子どもの思考を活発にする働きかけが行われている。	約60%	深い学びにつながる課題提示や問いかけの仕方について、さらに工夫していく必要がある。

（資料４）高知ろう学校授業のスタンダード票から見る授業評価のまとめ

コミュニケーションの項目において、「子どもに適したコミュニケーション手段を活用している」「子どものよいところを見つけて認める」ことは90％以上達成できており、（個々の実態を把握し、コミュニケーションをとり、子どもを肯定しながら授業を展開することができていた。しかし、生徒数減少のため、「自分と異なる友達の意見や考え方に接し、ものを見る観点や考え方を広く深め合う指導ができている」などの項目は、指導に十分取り入れることができていない。評価項目を現状に合ったものにすることや異なる考えに接することのできる環境をどのように設定していくかが、授業づくりの課題となっている。

「ICT機器を生徒が活用する場合、子どもの思考につなげることができている」については、評価対象とした授業の中で、子どもがICT機器を活用した授業は、約40％であった。その中で「子どもの思考につなげることができている」と評価された授業は約50％であった。これからの社会に向けて新たな子ども像を描き、どのような授業を作っていくのかを教員自身が深めていく必要がある。

また、「揺さぶりやさそいかけなど、子どもの思考を活発にする働きかけが行われている」では、達成率が64％であった。深い学びにつながる課題提示や問いかけの仕方について、教員一人一人がさらに工夫していく必要がある。

今後は、知識伝達型ではなく、学習者が主体的に学ぶ手段としてICT機器の活用を広げていくことが必要である。本校は一人学級が多いため、学力定着のための個別の学習指導には取り組みやすい面がある。しかし、新学習指導要領では、予測不可能な時代を生き抜く資質・能力や答えのない課題に向き合う力が重視されているため、発達段階に応じて、授業だけでなく学校行事や、部活動、社会へと拡大し、ITリテラシー、情報モラルを育める環境を築いていきたい。

実践事例１

Ⅰ　学部：幼稚部、　製作

Ⅱ　指導のねらい

・折り紙を使って、アジサイの花弁を作る方法を選択させる。

Ⅲ　使用した支援機器・教材

インターネットで検索した幼児が作れそうな作品の画像、パワーポイント、パソコン

Ⅳ　実践内容及び成果

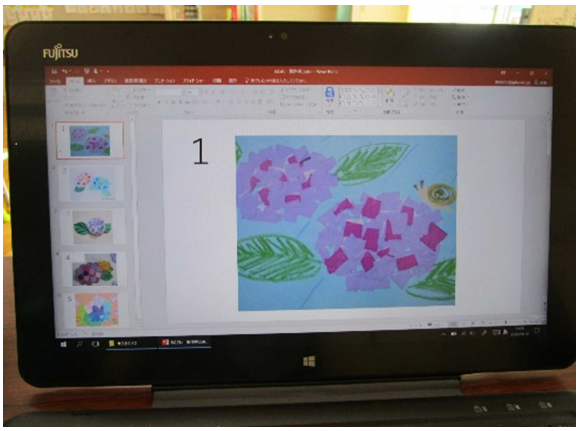
【実践内容】

アジサイの色の折り紙を４分の１に切った物を数枚と昨年アジサイを見ながらクレパスと絵の具で製作している写真を用意した。アジサイを作ることを伝え、パワーポイントの画像５枚をクリックさせながら順次見せ、どれを作りたいか考えさせた。どんな作り方をしているのか、自分でできるか比較できるように、ホーム画面でじっくり考えて選択させた。

【成果】

初めに見た時は、きれいだな、いいなと思った物を選んで「これ」と言っていたが、折り紙を見ながらどんな方法で作るのか再考させると、自分でできそうな物を選んだ。

Ⅴ　写真・図



選ぶ時の画面

材料とできた作品

実践事例２

Ⅰ　学部：小学部２年　　教科等：自立活動

Ⅱ　指導のねらい
司会・号令かけ、自分の意思・要求を表す、挨拶でのやり取りができるようにする。

Ⅲ　使用した支援機器・教材
iPad、アプリ「ドロップトーク」（話し言葉でのコミュニケーションを苦手とする児童を助ける、補助代替アプリ）

Ⅳ　実践内容及び成果

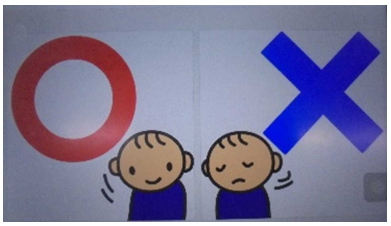
【実践内容】

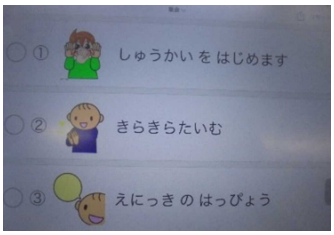
iPad のドロップトークをタッチすることにより朝の会・集会の司会をしたり、号令をかけた。「お茶を飲みたい・トイレに行きたい・人工内耳を外したい」等、写真やイラストを選択して押すことにより、自分の意思・要求を表わせるようにした。聞こえの確認やイラストを押して「おはよう・ありがとう、さようなら」等のあいさつにも使用した。

【成果】

司会や号令等、自分の役割を果たすことができ集団の中で活躍の場があることで、達成感が得られた。自分の意思・要求を表せる方法が分かり、活用することができた。自分の意思が伝わることでうれしそうな表情を見せ、満足することができていた。聞こえの確認をすることにより人工内耳や聴力の状態を知ることができた。挨拶をすることで児童や教員とのコミュニケーションを図ることができた。

Ⅴ　写真・図





実践事例３

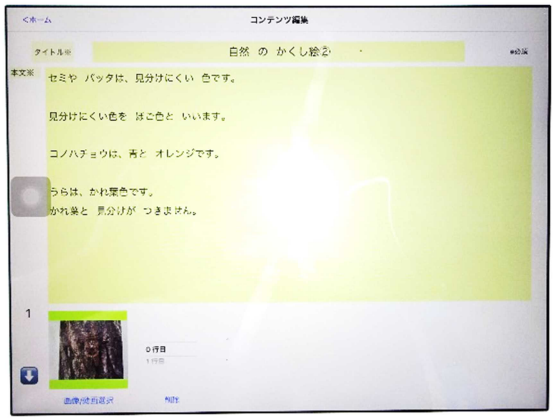
Ⅰ　学部：小学部３年　　教科：国語

Ⅱ　指導のねらい
国語科の単元教材の理解を図り、学習意欲を高めるため。

Ⅲ　使用した支援機器・教材
アプリ「ひなぎく」（文字や音声、画像を同時に再生できるデジタル図書を作成する）「のじぎく」（文字や音声、画像を同時に再生できる。） 電子情報ボード、iPad

Ⅳ　実践内容及び成果
【実践内容】 　教科書を理解できるように作り替えたリライト教材の内容を「ひなぎく」アプリで作成し、「のじぎく」アプリを使い電子情報ボードで絵と音声を再生させた。これを国語科の授業の導入部分で使い、内容の理解につなげていった。 **【成果】** 　絵や児童に伝わるような速さと分節で区切った音声で内容を知ることができ、学習意欲が湧くとともに内容を大まかにつかむことができていた。

Ⅴ　写真・図



作成アプリ「ひなぎく」

再生アプリ「のじぎく」

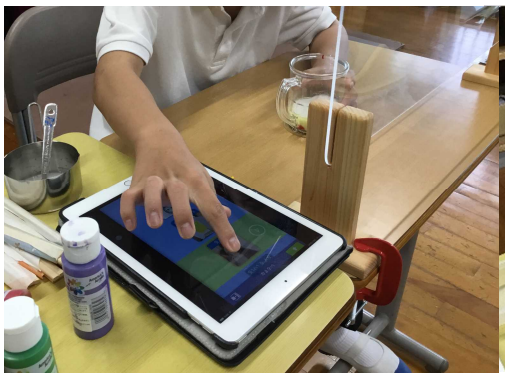
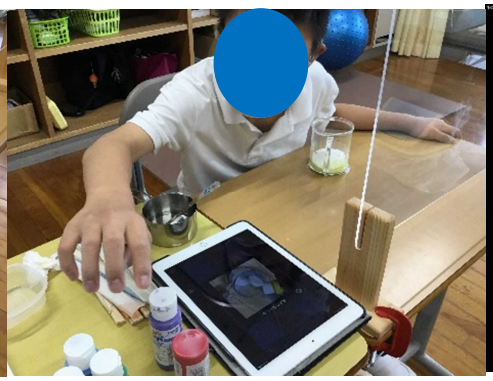
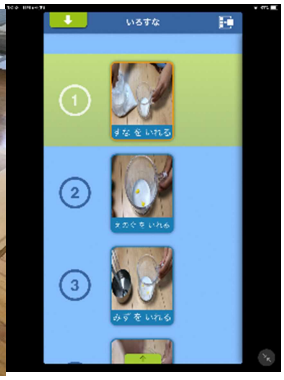
実践事例4

Ⅰ　学部：中学部　　教科等：重複学級・美術

Ⅱ　指導のねらい
アプリ「たすくステップ」を使用し、生徒自身で手順を確認しながら制作に取り組めるようにする。

Ⅲ　使用した支援機器・教材
iPad

Ⅳ　実践内容及び成果
【実践内容】 白い砂を絵具で着色をする制作活動において、iPad アプリ「たすくステップ」を使用した。まず、手順の動画を一つずつ再生し、制作の流れとアプリの操作方法を伝えた。次に、生徒の座席の隣に iPad と使用する道具、材料をすべて置き、手順 1 から一つずつ確認しながら制作を行うよう促した。1 回目は教師と取り組み、2 回目以降は見守り、必要な場面のみ手助けした。 **【成果】** 2 回目の制作以降、手順の半分以上を、生徒自ら操作して動画を見ることができていた。また、使う道具や材料も動画と同じものを手に取ることがほとんどであった。教師が印刷した手順書を提示して活動に取り組んだ時と比較して、教師が介入した回数が減少した。画像だけでは分かりにくい前後の動作が分かりやすかったようであった。

Ⅴ　写真・図
   左：iPad を操作している　　中：材料を取ろうとしている　右：アプリの画面

実践事例５

Ⅰ　学部：中学部　教科等：数学

Ⅱ　指導のねらい
式から２次関数のグラフの概形をつかむ。

Ⅲ　使用した支援機器・教材
関数グラフ作成ソフト「GRAPES」　パソコンの利用

Ⅳ　実践内容及び成果

【実践内容】

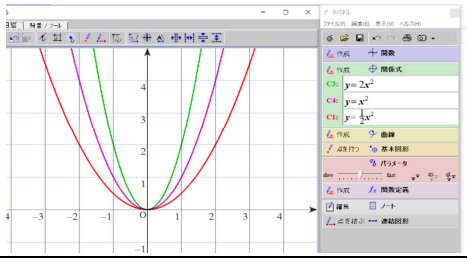
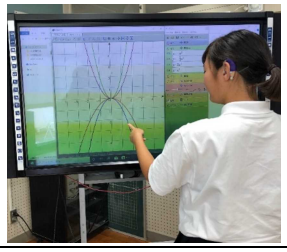
グラフに関する基礎的な学習を終えてこの学習を行った。関数ソフトを使用して $y = ax^2$ の a に様々な数を入力し、グラフの形の変化を予測して、確かめるようにした。① a に数を入れて形を予測する。②ソフトでグラフの形を確認する。③ a の値の違いにより、グラフの形がどう変化するかノートにまとめさせる。という流れで実践を行った。

【成果】

a の数の絶対値のみに着目したり、正と負の違いのみに着目したりしながら考えていた。何度か数値を当てはめたりしながら、形を確認し、a の値を見るだけでグラフの形を相対的に表現できるようになった。放物線の形と a の数値の関係について、最初は言葉で表現することが難しいため、腕の開き具合でグラフの形を表現していた。授業の最後には、「a がプラスのとき、上に開いたグラフで、数が大きくなると開き方がちいさくなる。数が大きくなると開き方が大きくなる。a がマイナスのとき、下に開いたグラフで･･･。と文章でまとめることができた。

Ⅴ　写真・図

（左）概形を予測してグラフの形を腕で表現している様子。（中央左）式に数字を入力。（中央右）関数グラフ作成ソフトの画像。（右）グラフの概形を確認している様子。

実践事例6

Ⅰ　学部：高等部　　教科等：英語

Ⅱ　指導のねらい
・不定詞を含む表現の語順を理解する ・教科書のイラストを見て英語でやりとりをする

Ⅲ　使用した支援機器・教材
・電子情報ボード（情報ボード）　・パソコン　・教科書付属資料

Ⅳ　実践内容及び成果

【実践内容】

不定詞や不定詞を含む表現の語順、使用語彙などについてスライドで色分けやアニメーションを用いて学習した後、教科書付属資料のＤＶＤソフト画面を情報ボードで演習問題を提示した。語の並べ替えやイラストに合わせて表現をするという内容の演習問題である。英語の音声も聞くことができるため、発音だけでなく、文字と音と意味を結び付けたり、抑揚なども一緒に確認した。

【成果】

[スライドの使用]

・アニメーションを使うことで、どの英語がどの日本語や文の要素と関連しているのかなどが、生徒が視覚的に分かりやすく提示できた。

[教科書付属ソフト]

・教科書にも掲載されている演習問題を、情報ボードで提示することで生徒が注目すべき箇所が絞られるので、他の視覚情報が気になる生徒の視線を集中させることができた。

・振り返りの際にも、再度同じように画面を提示できるので、語順の理解のための解き直しが円滑にできた。

・情報ボードと板書が同じ視線の高さにあるので、板書の内容と演習問題を見比べたり確認したりすることを教師が促しやすく、生徒も机上の教科書と板書を交互に見るよりも視線の動きが少ない。

・音読活動では、学習部分の音声を情報ボードから聞くことで、英文の抑揚に生徒が興味をもち同じように発音しようとするなど、意欲的な様子がみられた。

Ⅴ　写真・図

画像１：色別で文の要素を提示し、
アニメーションで語順を強調

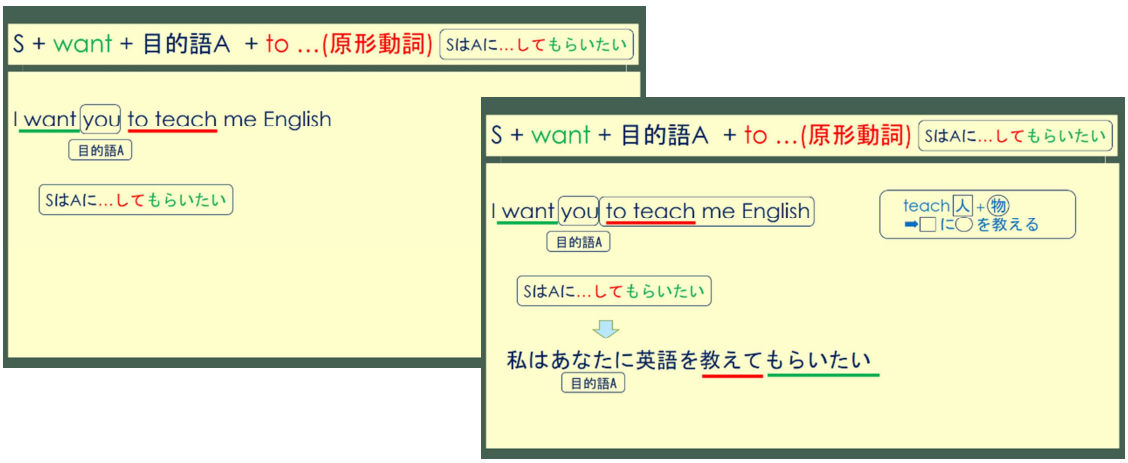


写真１：板書と比べながら解答

高知ろう学校授業のスタンダード票

・できたところに〇を入れる。
・実態や授業展開により、評価しない観点には評価欄に最初から斜線を入れておく。
・3回実施した後、集計する。
・年数に応じた項目を評価する。他の項目にも目をとおし意識する。
・**2学期終了まで**に実施し、データを無記名で学部研のフォルダに提出する。
この〇をコピーして使ってください。

学部名	
A	1年目に達成したい17項目
B	2年目に達成したい16項目
C	3年目以上で達成したい7項目

		項目(全40項目)	実施日 ① ／	実施日 ② ／	実施日 他者 ／	計
補聴環境等						
A	1	・教師のマイクの音量や電池のチェックができている。				
A	2	・教師の付けるマイクの距離(基本は口元から約15cm)方向が守れている。				
A	3	・マイクの受け渡し時には、スイッチOFFができている。				
A	4	・雑音に配慮できている。(くしゃみ、せき等)				
A	5	・学習前に子どものきこえの状態をチェックできている。				
A	6	・子どもが「きこえにくい」と表現した場合、すぐに何らかの対応がとれている。 補聴システムのチェック、 電池の残量(子ども・マイク)、 子どもの補聴器のチェック スイッチの切り替え(MorMT、FM)、 イヤモールドのつまり、 疾患(風邪の予後、鼻閉等)聴力低下				
口話・読話						
A	7	・机の配置は馬蹄形(相互読話の可能な形)がとれている。				
A	8	・子どもとの距離(くっつきすぎない、離れすぎない)、角度に配慮できている。				
A	9	・光源に注意できている。				
B	1	・子どもが読話しやすい位置で、口形の分かる話しかけができている。				
B	2	・適切な話し声の大きさを保つことができている。				
B	3	・正確で、適切なことば遣いで話せている。				
B	4	・口声模倣などで、生徒の読話の理解を確かめている。(子どもにより異なる)				
B	5	・話し合いの場面では、相互読話への配慮がなされている。				
C	1	・話し方は自然で、不必要な繰り返しがなく、要点を得ている。				
コミュニケーション(口話・手話・指文字・身振り)						
B	6	・子どもに適したコミュニケーション手段を活用している。				
B	7	・すべての子どもに、説明を正確に伝えることができている。				
C	2	・易しい言葉のみを使わずに話しかけている。				
C	3	・手話や指文字などを使い分け、理解につなげることができている。				
授業案・授業展開						
A	10	・子ども一人一人に対してそれぞれの指導目標を持っている。				
A	11	・一方的な授業ではなく、質疑応答を通した会話のある授業ができている。				
A	12	・新出語句についての指導が行われている。				
A	13	・授業中、前で発表したり、黒板に書く等、動きのある学習が計画されている。				
B	8	・学習のまとめができている。学習内容を言葉でおさえ、理解できている。				
B	9	・子どもの授業内容に対する理解を、質問・テストなどで確認している。				
B	10	・子どもの実態・課題にあったICTの活用ができている。				
B	11	・子どもの言葉の発達段階、教科に関する理解のレベルに沿った授業が展開されている。				
C	4	・子どもの反応を予想した授業案が立てられている。				
子どもへの関わり						
A	14	・指導の途中でこまめに達成感を確認している。				
A	15	・子どもの発言をきちんと受け止めている。				
B	12	・子どもが考えたり予想したり判断する時間を充分確保している。				
B	13	・子どもの発言を生かし、発展させている。				
C	5	・自分と異なる意見や考え方に接し、ものを見る観点や考え方を広げ深め合う指導ができている。				
C	6	・揺さぶりやさそいかけなど、子どもの思考を活発にする働きかけが行われている。				
C	7	・子どもが相互に話し合い、思考を高めあっている。				
板書(→ホワイトボードやカードとする)						
A	16	・板書する時と指示や説明をする時を区別している。				
A	17	・チョーク、資料等の色表示を効果的に活用してる。				
B	14	・板書事項・資料等は、簡潔で要点を整理し、分かりやすく書けている。(構造化や字の大きさ)				
B	15	・板書事項を斉唱させたり、写させたり、記憶させるおさえがなされている。				
B	16	・子どもと教師との共同思考の場として、板書が働いている。				
		計				

授業改善シート

高知ろう学校　小学部

教　科　等		日時	
単　元　名			
学　級　名		授業者	

授業改善のための視点			目指す児童の姿	重点目標◎	コメント
主体的な学び	1	学習に向かう姿勢が整っている。			
	2	興味・関心をもって活動に取り組んでいる。			
	3	自己選択・自己決定の場面がある。			
	4	活動への見通し・期待感をもって取り組んでいる。			
	5	めあてを理解している。			
対話的な学び	1	違いに気付いたり考えを共有したりする。			
	2	協力して問題解決する。			
	3	様々なものを使って調べる。			
	4	あらゆるコミュニケーション手段を使って伝える。			
	5	分からないことを聞く。			
深い学び	1	生活上の情報や経験を生かしている。			
	2	気付きや発見がある。			
	3	自分なりの方法で考えを広げることができる。			
	4	「できた」ということが実感できる。			
	5	学習したことを生活の中で活用することができる。			

特別支援学校（知的障害）

研究の概要　　日高特別支援学校（知的障害）

１　研究の目的

新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」が求められている。本校では、本校が捉えてきた「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」と児童生徒の学習活動の結びつきを意識した授業づくりに取り組むこととした。そして、知的障害特別支援学校における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とはどういったものなのかについて、本校としての捉えを検証しながら、知的障害のある児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業づくり・授業改善について研究していくことを目的とした。

また、児童生徒の学習活動が「主体的・対話的で深い学び」とどのようにつながっているのかを確認するためのツールの開発を目指すとともに、「指導と評価の一体化」を図っていくために必要な学習評価ツールの開発にも取り組み、それらを活用していくことで全ての教師の「専門性の向上」及び「授業の質の向上」を図っていく。

２　研究仮説

（１）研究仮説１

「学習過程分析表」を活用し、授業づくり、授業改善、授業反省会を行っていくことで、どの教師も「主体的・対話的で深い学び」を取り入れ、授業の質の向上につなげることができるのではないか。

（２）研究仮説２

「学習過程分析表」を活用し、生活単元学習での成果を他の学習の中で展開することで、他の授業でも同様の効果が期待でき、授業改善におけるツールとして活用できるのではないか。

３　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

（１）研究仮説１に関する取組

研究の初年度にあたる平成 30 年度には、授業改善のツールとして作成された「授業評価票（2018 版）」をたたき台として、群馬大学の霜田教授の指導のもと、「学習過程分析表（2018）」を作成した。「学習過程分析表（2018）」は、学習指導案に記述されている学習活動の内容と、本校が捉えた「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」とどのように関連しているのかを線で結び付けられている表となっており、学習活動と各学びとの関連性が一目瞭然で分かるものであった。当年度においては、「学習過程分析表（2018）」を「生活単元学習」において活用し、授業研究に取り組んだ。平成 30 年末の反省においては、「学習過程分析表（2018）」を、より活用しやすいものにするために、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」に関して、項目の追加や内容の修正を行う必要があるとの意見が出され、「学習過程分析表（2019）」への改訂を行った。

令和元年度は、改訂された「学習過程分析表（2019）」を活用し、再度「生活単元学習」の授業研究に取り組み、児童生徒の学習における変容を記録・分析していくことで、「学習過程分析表（2019）」の有効性を検証していくこととした。そのために、「学習過程分析表（2019）」には、研究授業の事後協議において授業の分析・評価の焦点化を図るために、学習活動及び児童生徒の変容に着目した、「注目してほしい学習活動」、「注目してほしい児童生徒の評価」の２つの項目が新たに設けられた。また、「研究授業（各学部１名：管理職が指定）」を年間２回実施し、研究授業後の事後協議において、管理職、学部主事、研究部等で構成された「授業改善チーム」及び他の参観者が授業に対する評価やアドバイスを行ってきた。

「学習過程分析表（2019）」は、本来は生活単元学習の授業改善に向けて作成したものであったが、他の教科等でも活用できるように、群馬大学の霜田教授の助言を受けながら、さらに項目・内容を検討していき、「新・学習過程分析表（2020）」への改訂につなげた。また、「新・学習過程分析表（2020）」については、学習指導案との分離を図り、別表とした。

令和２年度は、全ての教科等の授業づくりにおいて、「新・学習過程分析表（2020）」を活用し、全教師が公開授業及び研究授業を行った。また、学習指導案作りにおいても、細案の作成ではなく、誰もが簡単に作成できる「学習指導略案」を作り上げた。この「学習指導略案」は、前年度に作成された「学習過程分析表（2019）」に記載されていた「注目してほしい学習活動」及び「注目してほしい児童生徒の評価」の項目を取り入れ、「指導と評価の一体化」を図ることができるものになっている本校独自の様式である。さらに、この「学習指導略案」には、「本時の学習」に対する「学習指導要領」の内容の段階との関連について記載するとともに、「注目してほしい学習活動」に対して、「重視した主体的・対話的で深い学びの視点」を「新・学習過程分析表（2020）」に示されている項目を記載するようになっており、授業づくりの際には「学習指導要領」との関連、「主体的・対話的で深い学び」との関連が常に意識される仕組みが組み込まれている。

また、前年度に事後協議用ツールの試作品として作られた「事後協議シート（2019：仮）」の改良に取り組んだ。限られた時間内で、いかに的を絞った協議を行っていけるかを考え、協議内容については、「学習指導略案」に記載されている「注目してほしい学習活動」及び「注目してほしい児童生徒の評価」に絞り込み、２つの項目について協議していく「事後協議シート（2020）」を作成した。この「事後協議シート（2020）」の活用によって、協議時間の有効活用及び協議の焦点化を図ることができる体制を整えた。

（２）研究仮説２に関する取組

「学習過程分析表」は、平成30年度においては、当初「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」に関して、内容的に誰もが分かりやすいシンプルなものを作成し、「学習過程分析表（2018）」として「生活単元学習」の授業づくりに活用してきた。１年間の取組を通して、項目や内容をもう少し詳しくした方が使いやすいなどの意見を受け、項目及び内容を検討し、「学習過程分析表（2019）」へと改訂を行った。

令和元年度において、「学習過程分析表（2019）」は、再度「生活単元学習」の授業づくりに活用

し、その有効性を検証すると同時に、「各教科」や「作業学習」等においても活用することを意識した取組を行ってきた。令和元年度の取組を通して、「学習過程分析表（2019）」は、「各教科」等に対しても活用できそうであるが、さらに「深い学び」等の内容の充実を図ったら良いといった意見を受けて内容を見直し、年度末に「新・学習過程分析表(2020)」を作り上げた。

令和２年度は、「各教科」、「生活単元学習」、「作業学習」において、「新・学習過程分析表(2020)」を活用して、授業づくり（授業研究）を行い、本分析表の「各教科」等での活用の有効性について検証を行った。この検証においては、全ての教師が、「生活単元学習」だけでなく、国語や数学、体育といった「各教科」や「作業学習」等の授業づくりにおいて、「新・学習過程分析表(2020)」を活用して授業研究に取り組んだ。

４　まとめ

（１）成果

本校では、「主体的・対話的で深い学び」についての確認ツールである「学習過程分析表」等を、群馬大学の霜田教授及び高知県立大学の石山教授の指導・助言を受けながら、研究に取り組んだこの３年間、毎年改訂を行いながら作り上げてきた。現在、成果物として、「新・学習過程分析表（2020）」、本校独自様式の「学習指導略案」、授業評価ツールである「事後協議シート（2020）」がある。この３つの成果物は、授業づくり・授業評価・授業改善に密接につながっている。

まず、授業づくりにおいて、本校独自様式である「学習指導略案」の作成及び「学習過程分析表」の活用により、以下のような成果を上げることができた。

「学習指導略案」作成・活用における成果としては、「注目してほしい学習活動」及び「注目してほしい児童生徒の評価」の項目を「学習過程分析表（2019）」からこの「学習指導略案」に移したことで、授業の焦点化を図ることができたと同時に、児童生徒の学習における変容の確認（評価）が行えるようになったことが挙げられる。また、「学習指導略案」を、全ての教師が使用して授業づくり（研究授業、公開授業）を行ってきたことで、計画した学習活動と「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の関係性や、「学習指導要領」との関連を意識することができたこと、そして、各教師が、自身が実施した授業が「主体的・対話的で深い学び」となっていたかを、児童生徒の学びの評価を通して検証することができたことも大きな成果であった。

次に、研究授業の検証のために取り組まれた事後協議における成果としては、「事後協議シート」の作成・活用が効率的であり、実用的であったこと及び協議体制の工夫が挙げられる。

研究授業後の事後協議においては、「指導と評価の一体化」を考慮し、「事後協議シート(2020)」の内容に、「学習指導略案」の項目として設定されている「注目してほしい学習活動」及び「注目してほしい児童生徒の評価」をリンクさせ、協議内容の焦点化を図ることで、論点を絞った協議を行うことができるようになったことが成果として挙げられる。また、協議を行う体制について、小・中・高の学習（教育課程）の系統性を考え、縦割りグループを編成し、協議を行うようにしたことで、カリキュラムマネジメントとして、小・中・高の学習の系統性を学校全体で考える機会となっ

たことは成果であった。

以上のように、本校は授業づくりや授業改善のためのツールを開発し、活用しながら、「研究仮説１・２」の検証に取り組んできた。

毎年改訂を重ねてきた「学習過程分析表」を活用し、「生活単元学習」だけではなく、「各教科」「作業学習」等においても「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した授業づくりに取り組んできた。授業後に多くの教師から、「学習過程分析表は主体的・対話的で深い学びの観点を確認するのに役立った。」「保健体育科の観点（表現）で考えていることを、新・学習過程分析表の項目に照らして、主体的な学び、対話的な学び、深い学びのそれぞれの視点で区別して整理し見直すことができた。」「専門性の向上が図られた」などの意見が寄せられた。これらの意見を受け、「学習過程分析表」を活用して授業づくり・授業改善を行うことで、専門性の向上及び授業の質の向上が図られたこと、そして、全ての教科等において活用が可能であるといった結果が得られたことにより、「研究仮説１・２」は実証されたものと考える。

最後に、今回の研究において、一番の大きな成果は、全ての教師が、「学習指導略案」や「学習過程分析表 (2020)」といった授業作り・授業改善ツールを活用し授業研究に取り組んだということではないかと考える。学校として研究に取り組む際、ともすれば誰か代表の教師が授業研究に取り組み、その成果をまとめて発表することで研究が終わってしまい、個人的には専門性や授業力が高まるものの、その他の教師の資質・能力の向上にはつながっていないといったことが起こりがちである。そういった風潮を払拭するためにも本校では、全ての教師が「主体的・対話的で深い学び」及び「学習指導要領」を意識した授業づくり・授業改善といった授業研究に取り組むことができたことは大きな意義があると考える。

（２）課題

多くの教師から、「深い学び」につながっているかどうかを評価するにあたって、現在の項目の説明内容では、まだ十分に理解して判断・評価できないとの意見もあり、「深い学び」についての解釈や説明について、まだまだ課題が残されている。具体例としては、「新・学習過程分析表(2020)」において、支援度の高い児童生徒に対する「深い学び」とはどういったものなのかについて明記されておらず、同分析表の不備が指摘されている。また、どのような学習活動を「深い学び」として捉えればよいのか、「対話的な学び」と「深い学び」が重複するような活動もあるが、さび分けをどのように判断していくのかなど、新たな課題が明らかになってきた。

今後も「深い学び」の視点をどのように整理していくか等について、引き続き検討していく必要があると考える。

一方で、実際の生活場面において、学習したことの「応用」や「般化」が確認されれば、「深い学び」があったものと考えられるため、今後、学校内での全ての教育活動場面及び家庭での生活の場面において、児童生徒がその力を発揮できた場面を見逃すことなく、その事例を家庭の協力も仰ぎながらしっかりと記録しておくことが大切であるということを付記する。

実践事例

（1）はじめに

本学級は小学部５年生の男子児童４名で構成されている。児童の実態としては、こだわりや衝動性などが見られ学習に集中できないことがある。日常生活においては、指示待ちであったり、遊びに夢中になると次の活動に移れなかったりするなどの課題があるが、スケジュールカードを示したり、タイマーを活用したりすることで見通しをもって活動することができる。コミュニケーション面では、全員に発語があり、簡単な要求を言葉で伝えたり、言語指示で行動したりすることができる。休み時間にダンスを全員で踊ったり、iPad のアプリで盛り上がったりするなど児童同士の関わりが増え、言葉でのコミュニケーションの場面も見られるようになってきている。

適切な人との関わり方をテーマにしながら生活単元学習に取り組むことを通して、他者への気付きや関わりができるように経験を重ねたいと考えた。

ア　第１回目　生活単元学習「育てた野菜を販売しよう」

（ア）この授業でどのような力をつけさせたいか

ａ　児童の実態

販売学習については、今年度初めての活動となる。昨年度のなつまつりの出店でゲームの受付係や野菜の販売係になった児童は、挨拶をしたりお金を受け取ったりした経験があるが、金銭の取り扱いの経験が少なく、実生活に結び付いていないことが課題である。

また、自分から挨拶したり、話しかけたりすることができる児童もいるが、話す時の声の大きさや人との距離感については課題がある。

ｂ　つけたい力

単元の目標として、

・声の大きさや姿勢に気を付けて、販売することができる。(「知識及び技能」)

・金銭の扱いに慣れ、金銭の大切さや必要性が分かる。(「知識及び技能」)

・できたことや頑張ったことを発表することができる。(「思考力・判断力・表現力等」)

・自分の役割に取り組み、友達と協力して活動することができる。(「学びに向かう力、人間性等」)

以上４つの目標を設定した。

本単元では、４月に植えたジャガイモを収穫し、販売活動を行う。そして、販売して得たお金で、お菓子を買って打ち上げパーティーを行うという流れを体験的に学べるように設定した。自分たちで育てた野菜を商品とすることで意欲的に取り組むことや、販売の準備を自分たちで行い、販売、接客まで一連の活動に繰り返し取り組むことで、見通しをもっ

て取り組めるようにする。挨拶や販売時のやりとりで他者と関わる機会をつくったり、お金のやりとりなどの経験を積んだりすることができるようにした。また、算数や国語の学習でも、本単元と関連付けた学習に取り組んでいく。販売時に必要な金種やお金の数え方、個数の数え方の学習は算数でも関連付けて行う。また、声の大きさや丁寧な言葉遣い、話す時の姿勢などは国語の学習でも行い、日常においてもその都度意識できるような声掛けを行っていきたい。教科学習で基本的な学習に取り組み、その力を生活単元学習の販売学習や買い物学習などで般化できるようにしていきたい。

そして、単元の最後には、販売で得たお金で好きなお菓子を買ってパーティーの中で食べる。楽しい活動を最後に迎えることで達成感を得ることができるようにするとともに、将来の職業や余暇活動へとつながる経験も積むように設定した。

（イ）授業で大切にした点は何か

a　授業の工夫

販売練習の動画を見て、良いと思ってところで〇印のプレートを上げて、声の大きさや姿勢に気を付けて接客することができたかをみんなで確認し、次の販売活動に生かすことをねらいとした。振り返りの時には、振り返りシートを活用し、目標を達成できたか確認し、自分のできたことや友達の頑張ったところを発表できるようにした。

b　児童への配慮

児童への支援は、徐々に減らしていくことを意識し、自分たちで考えて主体的に活動ができるようにしたいと考えた。そして、小さなことでも成功すればその都度評価して、望ましい行動や活動を理解・強化したり、達成感や自己肯定感を高め、自ら考え、行動できることをねらいとした。

（ウ）取組を通して、何ができるようになったか

「知識・技能」の観点では、声の大きさや姿勢に気を付けて、練習や販売活動をしようとする様子がみられた。また、金銭の大切さや必要性に気付き、個別学習での算数のお金の学習にも意欲的に取り組むようになった。

「思考・判断・表現」の観点では、ペアの活動を通して、児童同士が助け合っている様子がみられた。

また、〇印のプレートや振り返りシートの活用で自己評価や他者評価につなげることができた。「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、楽しい活動が最後にあることで、見通しをもって意欲的に取り組み、達成感を得ることができた。

さらに、販売学習に取り組む中で、馴染みのある先生以外との関わりを体験することができたことや、休み時間などに他のクラスの先生に「じゃがいも買ってください」と売り込む児童がいたことなど、深い学びにつながったと感じた。

（エ）さらによい授業にするために何が必要か

a　主体的な学びの視点から

活動内容を精選し、必要に応じて手順書やイラストなどの視覚支援、声掛けなどを行うが、徐々に支援を減らしいく。また、繰り返し取り組むことで見通しをもってできるように取り組んでいきたいと考える。

b　対話的な学びの視点から

振り返りシートは、イラストで分かりやすく示したものであったが、自分が行った活動の評価であるということと結びついていない児童がいたので、より分かりやすいイラストを提示するなど、工夫・改善が必要だと感じた。児童の実態に合った教材・教具の工夫・改善を随時行っていきたい。

c　深い学びの視点から

さらに少ない支援で児童自ら活動できるように場面設定するなど、児童が主体的に活動できる授業づくりに取り組んでいきたい。

また、日常生活でもその場に応じた声の大きさや態度ができた時には称賛し、人との正しい接し方が般化できるように取り組んでいきたい。

写真１　前時の振り返り

写真２　グループ練習

写真３　模擬練習（発表）

イ　第２回目　生活単元学習「作って販売しよう」

（ア）この授業でどのような力をつけさせたいか

ａ　児童の実態

販売学習については、１学期に「畑の野菜を販売しよう」で、初めて取り組んだ。声の大きさや姿勢に気を付けて、練習や販売活動をしたり、金銭を扱う経験をすることで、個別学習の算数でのお金の学習にも意欲的に取り組むようになった。また、ペアの活動を通して、児童同士で助け合うことができ、○印のプレートや振り返りシートの活用で自己評価や他者評価につなげたりする場面もみられた。そして、販売して稼いだお金で好きな物を買うという一連の流れの中で、見通しをもって意欲的に取り組み、達成感を得ることができた。

商品を製作することは初めての取組となるが、毎月のカレンダー作りや季節の壁面飾りの共同作品作りでは、手順書や見本を見て、作品を作ることに取り組んでいる。

本単元では、さらに教師の支援を減らし、自ら気付き行動し、友達と協力して役割を果たすことができるようにしていきたいと考える。

ｂ　つけたい力

単元の目標として、

・声の大きさや話す速さに気を付けて、丁寧な言葉遣いで販売することができる。（「知識及び技能」）

・金銭の扱いに慣れ、金銭の大切さや必要性が分かる。（「知識及び技能」）

・飾りや塗る色を選び、クリスマスツリーを丁寧に作ることができる。（「知識及び技能」）

・教師の援助を求めながら、販売の練習に取り組んだり、友達と協力して役割を果たしたりすることができる。（「思考力・判断力・表現力等」）

・友達と協力して、校内で販売活動をすることができる。（「学びに向かう力、人間性等」）

以上４つの目標を設定した。

本単元では、松ぼっくりで作ったクリスマスツリーを製作して、販売活動を行う。そして、販売して得たお金で、お菓子を買って打ち上げパーティーを行うという流れを体験的に学べるように設定した。自分たちで商品を製作することで意欲的に取り組むことや、販売の準備を自分たちで行い、販売、接客まで一連の活動に繰り返し取り組むことで、主体的に取り組めるようにした。

対話的な学びとして、ペアでの販売練習を繰り返すこと、振り返りで自己評価・他者評価を行うこと、挨拶や販売時のやりとりで他者と関わること、お金のやりとりなどの経験を積むこと等ができるように設定した。

深い学びとして、販売の準備から練習、販売、打ち上げパーティーと一連の活動を通し

て、知識・技能が習得でき、自ら考え、友達と協力して活動できる場面が増えることをねらいとした。

そして、単元の最後には、販売で得たお金で好きなお菓子を買ってパーティーの中で食べる。自分たちで制作したものを売って販売し、稼いだお金で好きな物を買うという一連の流れの中で、お金をもらえる喜びや働くことの目的につなげていけるように設定した。

さらに、自分たちが製作した物品を購入してもらえる際に、「ありがとう」と言ってもらえることで感謝される喜びを感じ、次の活動への意欲につながることや、将来働くことの糧にしていけるような経験ができるようにしていきたいと考えた。

（イ）授業で大切にした点は何か

a　授業の工夫

進行役がスケジュールに沿って進行し、自分たちで活動する場面を設定した。また、販売練習の動画を見て、声の大きさや姿勢に気を付けて接客することができたかをみんなで確認し、次の販売活動に生かす。自己評価、他者評価をしやすいように○印のプレートを活用したり、振り返りの時には、振り返りシートを活用したりし、目標を達成できたかを確認する。

b　児童への配慮

児童への支援は徐々に減らしていくことを意識し、自分たちで考えて主体的に活動できるようにする。一連の活動の中で友達の様子に気付き、協力して活動できるような支援を行う。

（ウ）取組を通して、何ができるようになったか

「知識・技能」の観点では、声の大きさや言葉遣い、姿勢に気を付けて、練習や販売活動をしようとしていた。個々の実態は違うが、練習を重ねるごとによくなってきた。また、金銭の大切さや必要性に気付き、金銭のやりとりができた。

「思考・判断・表現」の観点では、ペアの活動を通して、児童同士が助け合うことができた。言い始めの言葉が出てこない児童にペアの児童がセリフを伝えてあげたり、商品を落とした時にかごに戻してあげたりしていた。○印のプレートや振り返りシートの活用で自己評価や他者評価につなげることができた児童もいた。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、友達と協力して、校内で販売活動をすることができた。お金の確認を助け合ったり、職員室での販売では手分けして販売を行ったりすることができた。

（エ）さらによい授業にするために何が必要か

a　主体的な学びの視点から

活動内容を精選し、必要に応じて手順書やイラストなどの視覚支援、声掛けなどを行う

が、徐々に支援を減らしていく。繰り返し取り組むことで見通しをもってできるように取り組むことを継続して行いたい。

b　対話的な学びの視点から

ペアや全体での活動を通して、友達と関わりながら活動する場面や、友達の活動に注目して他者評価につながるような活動の場を設定するなど継続して取り組んでいきたい。

c　深い学びの視点から

さらに少ない支援で児童自ら活動できるように場面設定するなど、友達と協力して主体的に活動できる授業づくりに取り組んでいきたい。

そして、お互いが声を掛け合って助け合おうとするような場面設定や声掛けの支援を継続して行い、日常生活でも友達との関わりが増えていくことを期待したい。

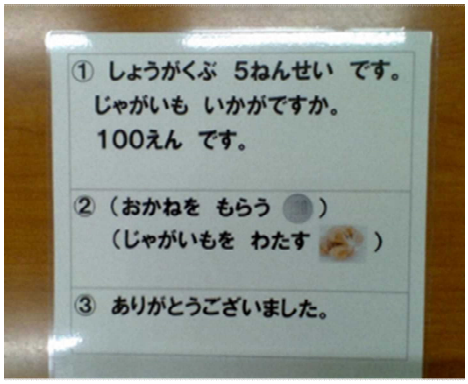
写真４　前時の振り返り

写真５　模擬練習（発表）

写真６　板書

写真７　○印プレート

写真８　練習用かご



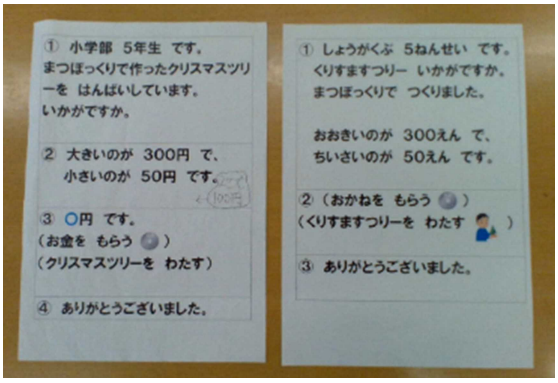


写真９　手順書（1 回目→2 回目）

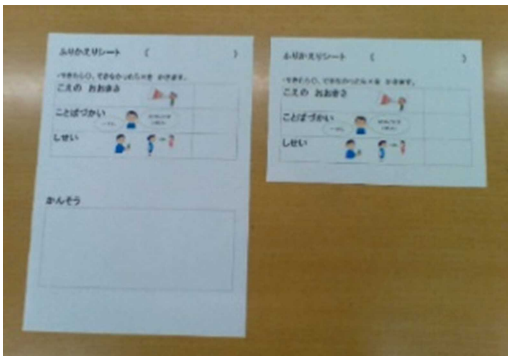


写真 10　振り返りシート（1 回目→2 回目）

（3）まとめ

ア　２回の研究授業の実践（児童の学びの姿）を通して

１回目の研究協議でいただいた意見やアドバイスを、２回目の授業に取り入れ、授業改善を行った。

２回目の授業研究では、進行役を児童が行うなど、より児童が主体的に活動できる場面を設定した。必要に応じて教師が問い掛けたり、促したりする声掛けは必要だが、進行役の児童は、意欲的に見通しをもって活動することができた。また、友達との関わりの中で、教師からの支援ではなく、友達同士で助け合って活動できる場面も増えてきている。販売に関しても、「買ってもらえるかな。」、「きれいって言ってもらえるかな。」と言ったり、商品を丁寧に作ってラッピングしたり、販売練習に繰り返し取り組んだり、他者との関係に興味をもちながら活動でき始めてきている。

授業の中でねらいとしてきたことは、販売時だけでなく日常生活においても「〇〇です。」「ありがとうございました。」と丁寧な言葉遣いができた時、その都度褒めて強化していきたい。みんなの前で称賛されることが自信になり、定着していけること（深い学び）へつながっていくと考える。そして、販売したクリスマスツリーを買ってくれた人が、「きれいだね。」、「よくできているね。」と評価し、喜んでくれることで自己有用感が高まり、次への励み（深い学び）へとつながるような授業づくりをしていきたいと考える。

イ　新学習過程分析表を使ってみて

注目してほしい学習活動にポイントを絞ることで、授業のねらいを明確にすることができ、研究協議を行う時に分かりやすかったのではないか。また、ポイントを絞って評価をすることで授業改善に生かすことができた。そして、学習過程分析表を活用することにより、主体的・対話的で深い学びの観点をしっかりと確認して授業づくりをすることができた。

新・学習過程分析表（2020）

Ⅰ　主体的な学び
1　学習活動への展開構成 ①物理的な環境設定 （座席配置、道具の位置、児童生徒・教員のグループ等） ②自ら考え、活動する場面設定 ③自己選択・自己決定の場面設定 （活動内容に係る選択肢の提示等）
2　見通しを高める。 ①動作補助を含む身体的支援 ②視覚情報による支援（手順表や見本、ジェスチャー等） ③音声言語による支援
3　興味・関心を高める題材及び活動設定
4　興味・関心を高める教材教具の活用
Ⅱ　対話的な学び
1　モノと関わり、活動につなげる。 ①タイマーや視覚支援教材からの情報を活動につなげる。 ②プリント教材や内容にある必要な情報を学習活動につなげる。
2　他者に情報を伝え活動につなげる。 ①コミュニケーションエイド等を用いた意思表示を活動につなげる。 ②質問、報告、考え等を意思表示して活動につなげる。
3　他者からの情報を活動につなげる ①周囲の雰囲気を感じたり、他者の見本を真似たりして活動する。 ②他者の活動を見て、自分のすべきことに取り組む。 ③他者の良さや失敗を自分の活動に生かす。 ④他者からのアドバイスや指示等を活動の改善につなげる。
4　仲間と活動する。 ①仲間と同じ活動の中で自分の役割を行う。 ②それぞれの役割を行う。
5　活動を評価する。 ①活動を振り返り、自己評価する。 ②他者からの評価を受け、自己評価へつなげる。
Ⅲ　深い学び
1　学習により得た知識・技能を応用し、活動を展開する。 ①様々な情報の中から、自分が必要とするものを選び、学習活動に生かすことができる。 （他人の意見に耳を傾け、従来の自分のやり方を修正しながらより良い方向に活動を展開することができる。） ②学んだ知識を日々の学習活動のいろいろな場面で関連づけていくことができる。
2　学んだ知識・技能を授業場面以外へつなげていく。 ①学校の様々な授業で学んだことを学校以外の場面で身に付けた知識・技能を自分で判断して活用できる。 （様々な生活の場面の中で自分自身の考えでいいものを選び活用できる。） ②学校以外の場面で、自分の思いや考えを周りの人に伝えたり、自ら進んで問題点を見出し、解決策を考えたりすることができる。

学習指導略案

令和２年度　○○学習指導略案

教科・領域名		授業者	○○　○○
学部・学年・組	部　　年　　組　　グループ	対象 児童生徒数	○○人
日　時	令和２年○月○日（○） ○時間目（○○：○○～○○：○○）	場　所	部　　室
単元名			
本時の目標	・ ・ ・		
学習指導要領 との関連	■　○○部学習指導要領 ・ ・ ■		

時間	学習活動	手立て、留意点
導入 分		
展開 分		
まとめ 分		

注目してほしい学習活動		
学習活動	授業者のねらい及び工夫ポイント	重視した主体的・対話的で深い学びの視点

注目してほしい児童生徒の評価			
児童生徒名	評価規準	学習活動に関する分析	目標達成度
【評価基準】A：十分達成できた。　B：ほぼ達成できた。　C：あまり達成できていない。　D：達成できていない。			

授業の振り返り（授業者の反省）

研究協議における意見・アドバイス

事後協議用シート（2020）

授業者：○○　○○　　単元名：○○○○○○○○○○○○○				
注目してほしい学習活動				
例展開○	うまく学習できていた様子（付箋：青色）	学習でつまずいていた様子（付箋：赤色）	学習のつまずきの改善案（付箋：緑色）	感想（付箋：黄色）
例まとめ○	うまく学習できていた様子（付箋：青色）	学習でつまずいていた様子（付箋：赤色）	学習のつまずきの改善案（付箋：緑色）	感想（付箋：黄色）

注目してほしい児童生徒の評価		
目標達成度		改善に向けたアドバイス等
児童又は生徒○		
児童又は生徒○		

授業者へ一言（意見、アドバイス、エール　など）

引用・参考文献　等

＊特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
（平成 29 年 4 月　文部科学省）
＊特別支援学校高等部学習指導要領
（平成 31 年 2 月　文部科学省）
＊特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
（平成 30 年 3 月　文部科学省）
＊特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）
（平成 31 年 2 月　文部科学省）
＊特別支援教育 No.71
（平成 30 年 11 月　文部科学省）
＊特別支援教育 No.77
（令和 2 年 3 月　文部科学省）
＊文部科学省ホームページ（最終閲覧　令和 3 年 3 月）
【URL】https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）

平成３０年度～令和２年度

研究指定校

・高知県立高知江の口特別支援学校

・高知県立高知ろう学校

・高知県立日高特別支援学校

特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」実践事例集

令和３年３月作成
編集・発行　高知県教育委員会
〒780-0850　高知市丸ノ内１丁目 7-52
TEL（088）821-4741（特別支援教育課）

本冊子の作成にあたっては「いらすとや」のイラストを利用しました。